

令和3年度  
全国学力・学習状況調査  
長野県の結果

長野県教育委員会

## 目 次

I	全国学力・学習状況調査の実施状況	1
II	全国学力・学習状況調査からみた長野県の成果と課題	2
1	教科に関する調査の結果と分析	2
(1)	令和3年度 教科に関する調査の結果と分析	
(2)	これまで（平成19年度～令和3年度）の調査結果の経年変化と分析	
(3)	過去5回（平成28年度～令和3年度）の調査結果の経年変化と分析	
(4)	過去5回（平成28年度～令和3年度）の調査結果の経年変化と分析	
2	質問紙調査の結果と分析	17
(1)	令和3年度 質問紙調査の結果と分析	
(2)	過去5回（平成28年度～令和3年度）の調査結果の経年変化と分析	
III	全国の分析との比較	24
1	教科に関する調査結果	25
2	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	27
3	教科に関する質問紙調査の状況 国語	32
4	教科に関する質問紙調査の状況 算数・数学	34
5	教科に関する質問紙調査の状況 英語	36
6	児童生徒の自己肯定感等に関する状況	37
7	ICTを利用した学習状況	39
8	地域や社会と学校の連携・協働に関する状況	42

## I 全国学力・学習状況調査の実施状況

1 実施日 令和3年5月27日（木）

2 対象学年 小学校第6学年，特別支援学校小学部第6学年  
中学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年

### 3 調査事項及び手法

#### (1) 児童生徒に対する調査

##### ア 教科に関する調査

(ア) 国語及び算数・数学の2教科について，調査を実施した。

(イ) 出題範囲は，調査する学年の前年度までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの教科に関し，以下のとおりであった。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

(ウ) 調査問題では，上記①と②を一体的に問うこととし，出題形式については，記述式の問題を一定割合で導入した。

##### イ 質問紙調査（児童・生徒質問紙調査）

質問紙調査は，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査を実施した。

#### (2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施した。

## 4 令和3年5月27日（木）に調査を実施した学校・児童生徒数

〔表 I〕 調査実施校数及び児童生徒数

	小学校		中学校	
	実施校数	児童数	実施校数	生徒数
長野県（公立）	359 校	16,382 人	193 校	16,391 人
全 国（公立）	18,857 校	994,101 人	9,320 校	903,253 人

※調査を実施した児童生徒数は，回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出した。

※全国学力・学習状況調査の教科調査問題，質問紙調査問題，全国の状況などは，国立教育政策研究所のホームページ（<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>）を参照のこと。

## II 全国学力・学習状況調査からみた長野県の成果と課題

### 1 教科に関する調査の結果と分析

#### (1) 令和3年度 教科に関する調査の結果と分析

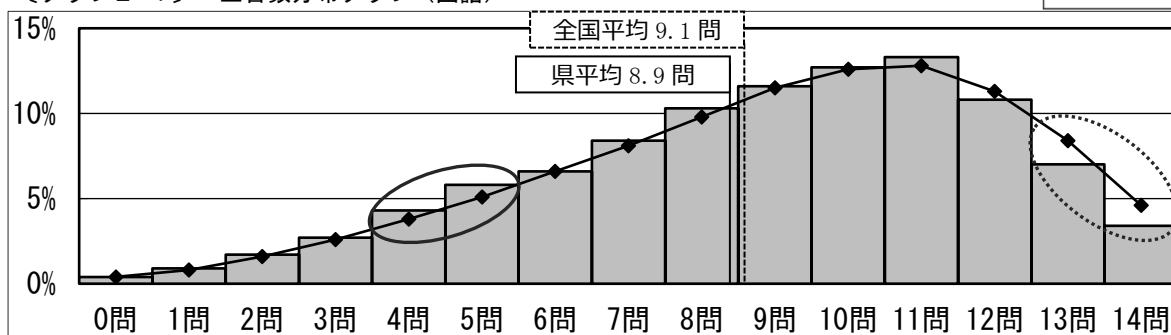
ア 小学校における平均正答率及び平均正答数，正答数分布と分析

(ア) 平均正答率及び平均正答数，正答数分布

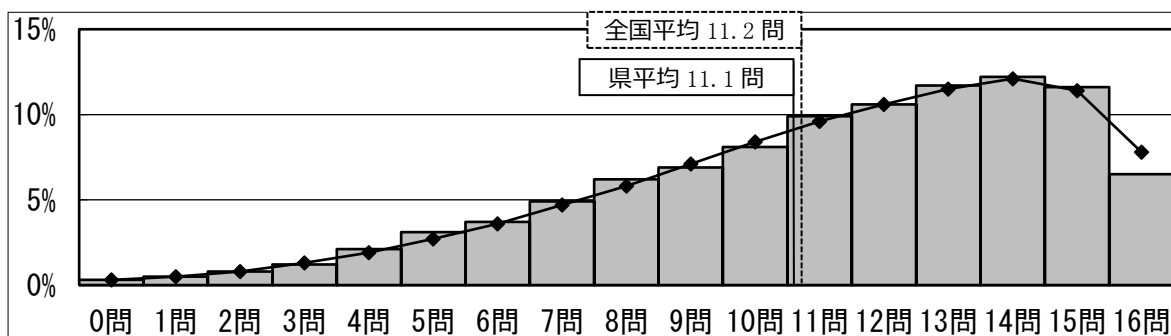
【表Ⅱ-1】 教科に関する調査の平均正答率及び平均正答数（小学校）

科目	区分	平均正答率	平均正答数／全問数
国語	長野県（公立）	63%	8.9／14問
	全国（公立）	64.7%	9.1／14問
算数	長野県（公立）	70%	11.1／16問
	全国（公立）	70.2%	11.2／16問

【グラフⅡ-1】 正答数分布グラフ（国語）



【グラフⅡ-2】 正答数分布グラフ（算数）



※グラフⅡ-1，2の横軸は正答数，縦軸は割合を示す。

#### (イ) 分析

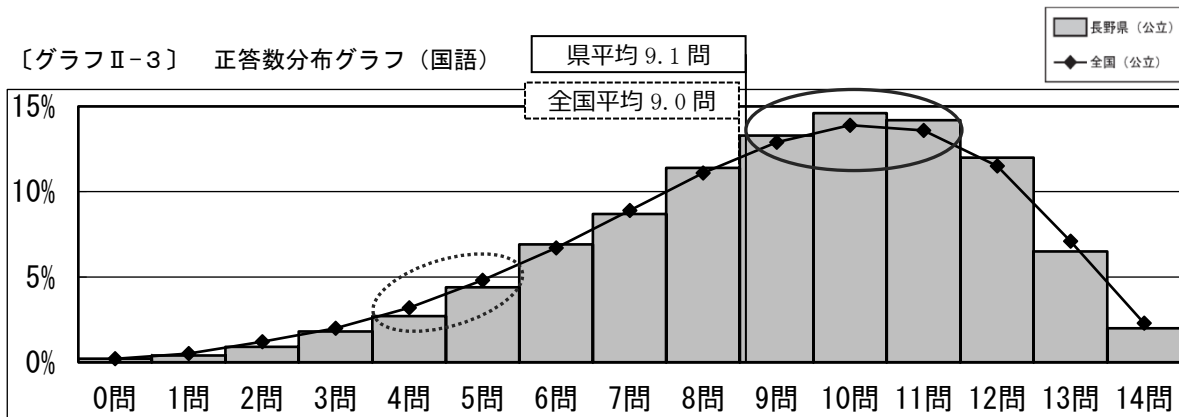
- ・算数の平均正答数は，全国と同程度である。（表Ⅱ-1）
- ・国語の平均正答数は，全国の平均正答数を0.2ポイント下回った。（表Ⅱ-1）
- ・国語と算数の正答数の分布は，全国とほぼ同様の傾向である。（グラフⅡ-1，2）
- ・国語では，正答数が4から5問の割合が全国平均よりもやや高く，13問以上の児童の割合が全国平均よりも低い状況である。（グラフⅡ-1）

イ 中学校における平均正答率及び平均正答数，正答数分布と分析

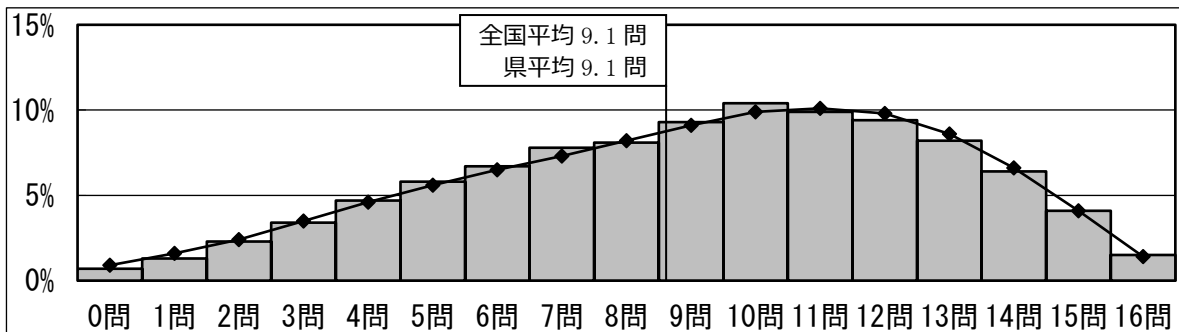
(ア) 平均正答率及び平均正答数，正答数分布

〔表Ⅱ-2〕 教科に関する調査の平均正答率及び平均正答数（中学校）

科目	区分	平均正答率	平均正答数／全問数
国語	長野県（公立）	65%	9.1／14問
	全国（公立）	64.6%	9.0／14問
数学	長野県（公立）	57%	9.1／16問
	全国（公立）	57.2%	9.1／16問



〔グラフⅡ-4〕 正答数分布グラフ（数学）



※グラフⅡ-3，4の横軸は正答数，縦軸は割合を示す。

(イ) 分析

- ・国語及び数学の平均正答数は，全国と同程度である。（表Ⅱ-2）
- ・国語と数学の正答数の分布は，全国とほぼ同様の傾向である。（グラフⅡ-3，4）
- ・国語では，正答数が4から5問の割合が全国平均よりもやや低く，9問～11問の生徒の割合が全国平均よりも高い状況である。（グラフⅡ-3）

(2) これまで(平成19年度～令和3年度)の調査結果の経年変化と分析

ア 小学校における経年変化(平均正答率)と分析

(ア) 平均正答率

〔表Ⅱ-3〕 教科に関する調査の平均正答率の経年変化(小学校)

教科	県・全国	H19 (悉皆)	H20 (悉皆)	H21 (悉皆)	H22* (抽出)	H24* (抽出)	H25 (悉皆)	H26 (悉皆)	H27 (悉皆)	H28 (悉皆)	H29 (悉皆)	H30 (悉皆)	教科	H31 (R元) (悉皆)	R3 (悉皆)
国 語 A	県 (公立)	82	67	70	83~ 85	82~ 83	64	73	70	74	75	72	国 語	64	63
	全国 (公立)	82	65	70	83~ 84	81~ 82	63	73	70	73	75	71		64	65
	全国との差	0	+2	0			+1	0	0	+1	0	+1		0	-2
国 語 B	県 (公立)	63	51	51	78~ 80	55~ 57	50	57	66	59	57	55			
	全国 (公立)	62	51	51	78	55~ 56	49	56	65	58	58	55			
	全国との差	+1	0	0			+1	+1	+1	+1	-1	0			
算 数 A	県 (公立)	84	72	80	73~ 75	72~ 74	78	79	75	77	78	62	算 数	66	70
	全国 (公立)	82	72	79	74	73~ 74	77	78	75	78	79	64		67	70
	全国との差	+2	0	+1			+1	+1	0	-1	-1	-2		-1	0
算 数 B	県 (公立)	64	51	54	48~ 49	58~ 60	60	59	45	47	46	50			
	全国 (公立)	64	52	55	49~ 50	59	58	58	45	47	46	52			
	全国との差	0	-1	-1			+2	+1	0	0	0	-2			
理 科	県 (公立)					60~ 62			61			61			
	全国 (公立)					61			61			60			
	全国との差								0			+1			

※H22年度、H24年度調査は抽出で実施されたため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲を「〇～〇」と示している。

※全国との差を示すために、全国(公立)の値は四捨五入し整数値で示してある。

(イ) 分析 ◇: 成果 ◆: 課題

◆国語は、平成31年度(令和元年度)における全国の平均正答率との差が0であったが、今年度は-2である。(表Ⅱ-3)

◇算数は、平成30年度における全国の平均正答率との差は、A、Bともに-2、平成31年度(令和元年度)は-1、今年度は0と差が少なくなっている。(表Ⅱ-3)

イ 中学校における経年変化（平均正答率）と分析

(ア) 平均正答率

〔表Ⅱ-4〕 教科に関する調査の平均正答率の経年変化（中学校）

教科	県・全国	H19 (悉皆)	H20 (悉皆)	H21 (悉皆)	H22* (抽出)	H24* (抽出)	H25 (悉皆)	H26 (悉皆)	H27 (悉皆)	H28 (悉皆)	H29 (悉皆)	H30 (悉皆)	教科	H31 (R元) (悉皆)	R3 (悉皆)
国 語 A	県 (公立)	84	74	78	74~ 75	76~ 77	77	80	76	76	78	76	国 語	73	65
	全国 (公立)	82	74	77	75	75	76	79	76	76	77	76		73	65
	全国との差	+2	0	+1			+1	+1	0	0	+1	0		0	0
国 語 B	県 (公立)	73	61	75	63~ 65	63~ 65	66	49	65	66	72	61			
	全国 (公立)	72	61	75	65~ 66	63	67	51	66	67	72	61			
	全国との差	+1	0	0			-1	-2	-1	-1	0	0			
数 学 A	県 (公立)	73	63	63	61~ 64	61~ 64	62	67	64	61	64	65	数 学	60	57
	全国 (公立)	72	63	63	64~ 65	62	64	67	64	62	65	66		60	57
	全国との差	+1	0	0			-2	0	0	-1	-1	-1		0	0
数 学 B	県 (公立)	62	50	57	40~ 43	47~ 50	40	58	41	44	48	46			
	全国 (公立)	61	49	57	43~ 44	49~ 50	42	60	42	44	48	47			
	全国との差	+1	+1	0			-2	-2	-1	0	0	-1			
理 科	県 (公立)					50~ 52			53			66	英 語	54	
	全国 (公立)					51			53			66		56	
	全国との差								0			0		-2	

※H22年度、H24年度調査は抽出で実施されたため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲を「〇～〇」と示している。

※全国との差を示すために、全国(公立)の値は四捨五入し整数値で示してある。

(イ) 分析      ◇：成果      ◆：課題

◇国語は、全国の平均正答率との差について、平成31年度(令和元年度)に引き続き、今年度も0で推移している。(表Ⅱ-4)

◇数学は、全国の平均正答率との差について、平成31年度(令和元年度)に引き続き、今年度も0で推移している。(表Ⅱ-4)

(3) 過去5回（平成28年度～令和3年度<sup>※1</sup>）の調査結果の経年変化と分析

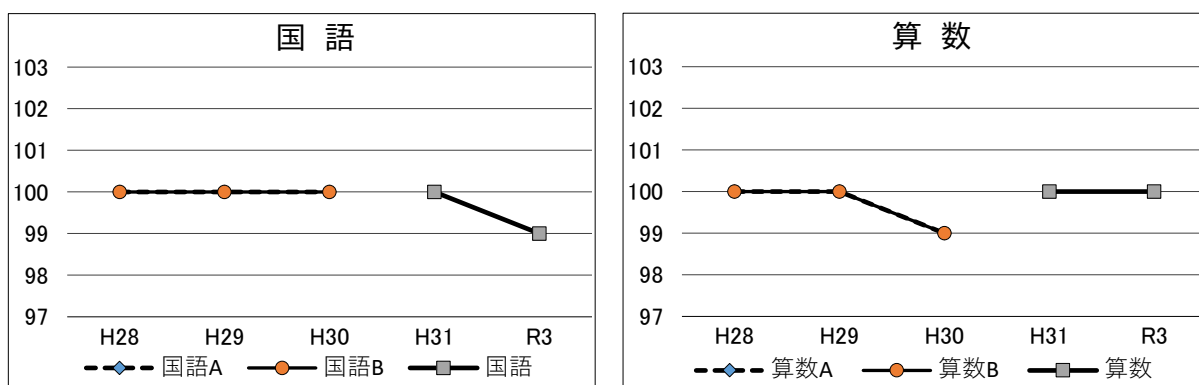
※1 令和2年度は未実施

① 小学校の経年変化（標準化得点<sup>※2</sup>）と分析

※2 標準化得点…各年度の調査は問題が異なることから、平均正答率による単純な比較ができないため、年度間の相対的な比較をすることが可能となるよう、各年度の調査の全国（公立）の平均正答数がそれぞれ100となるように標準化した得点。

(ア) 標準化得点

〔グラフⅡ-5〕 標準化得点の推移



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

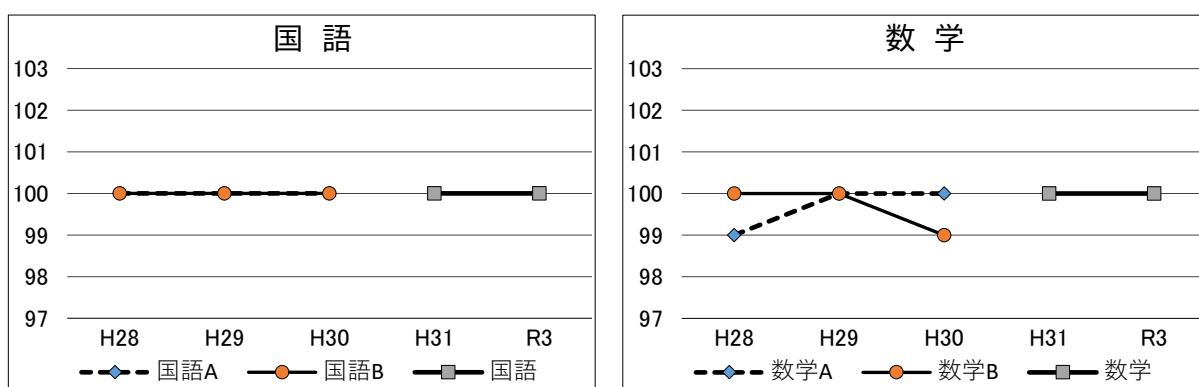
◆国語の標準化得点は、平成28年度以降、100で推移していたが、令和3年度は99と下がった。(グラフⅡ-5)

◇算数の標準化得点は、平成30年度は、A問題、B問題ともに99であったが、平成31年度、令和3年度は100で推移している。(グラフⅡ-5)

② 中学校の経年変化（標準化得点<sup>※2</sup>）と分析

(ア) 標準化得点

〔グラフⅡ-6〕 標準化得点の推移



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語の標準化得点は、平成28年度以降、100で推移している。(グラフⅡ-6)

◇数学の標準化得点は、平成28年度以降、A問題またはB問題が99と100を推移していたが、平成31年度、令和3年度は100で推移している。(グラフⅡ-6)



(4) 過去5回（平成28年度～令和3年度<sup>※1</sup>）の調査結果の経年変化と分析 ※1 令和2年度は未実施

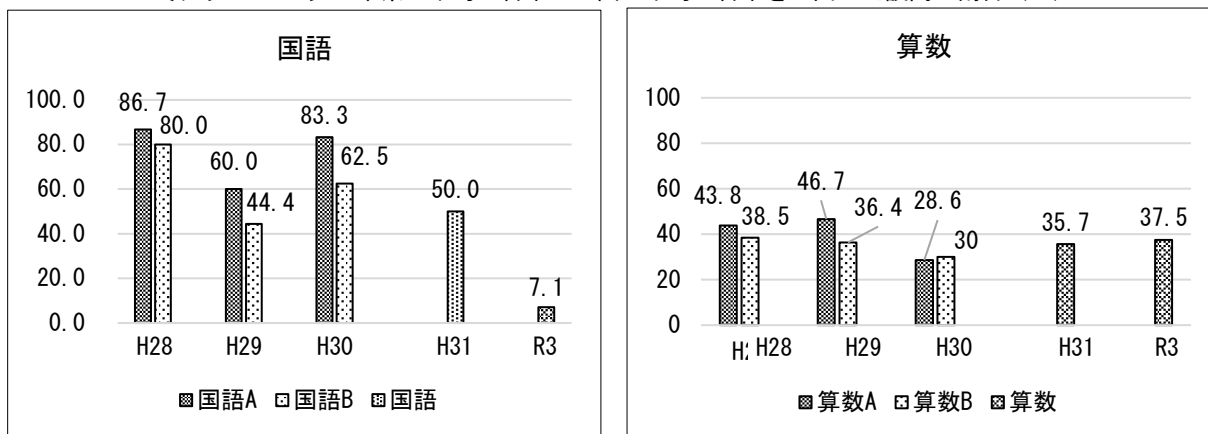
① 小学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無答率）と分析

i) 全国の平均正答率を上回った設問数と無答率

〔表Ⅱ-5〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数

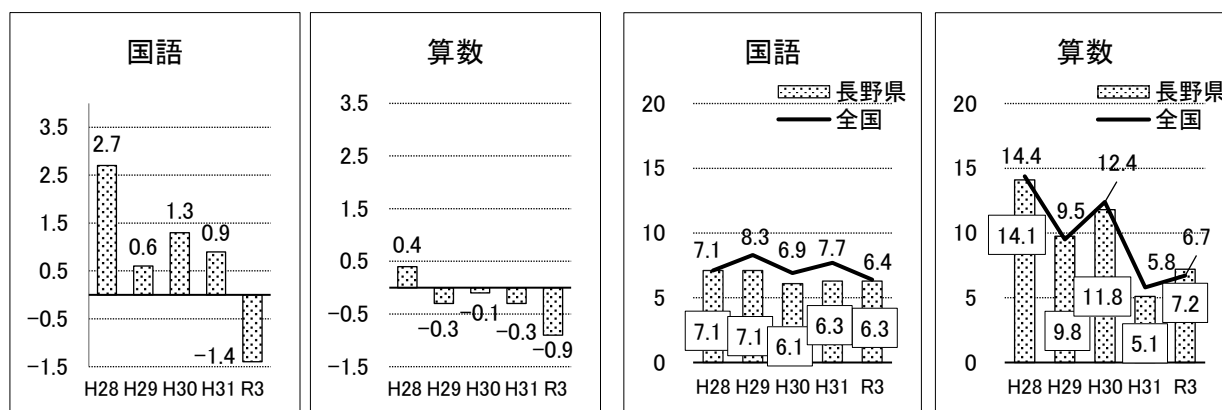
	国語A	国語B	算数A	算数B
平成28年度	13/15	8/10	7/16	5/13
平成29年度	9/15	4/9	7/15	4/11
平成30年度	10/12	5/8	4/14	3/10
	国語		算数	
平成31年度	7/14		5/14	
令和3年度	1/14		6/16	

〔グラフⅡ-7〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（％）



〔グラフⅡ-8〕 記述問題の全国平均正答率との差（％）

〔グラフⅡ-9〕 記述問題における平均無答率（％）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆国語、算数とも令和3年度における記述問題の平均正答率は、全国を下回り、算数の記述問題における平均正答率は、平成29年度以降、全国より低い状態が続いている。

(グラフⅡ-8)

◆算数の記述問題における平均無答率は、令和3年度は全国平均を上回っている。

(グラフⅡ-9)

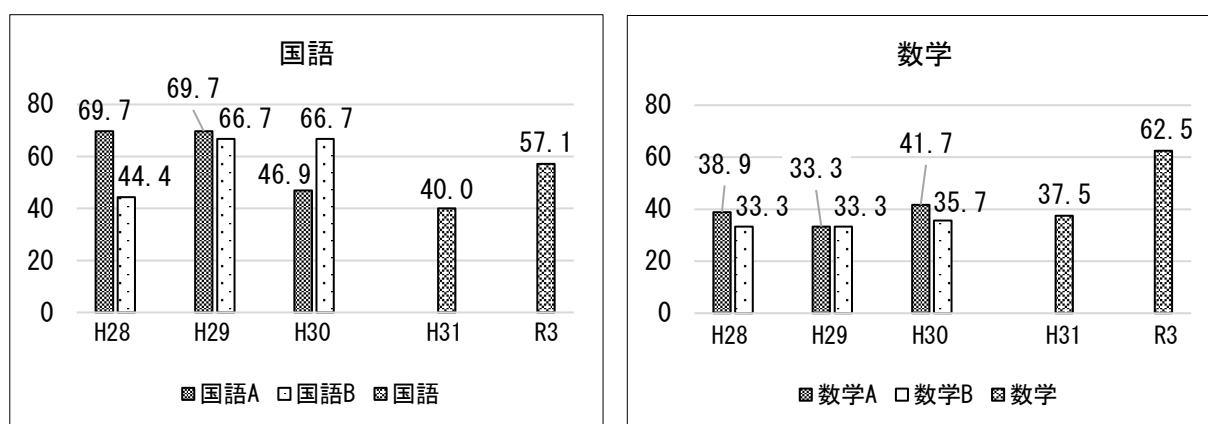
② 中学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無答率）と分析

i) 全国の平均正答率を上回った設問と無答率

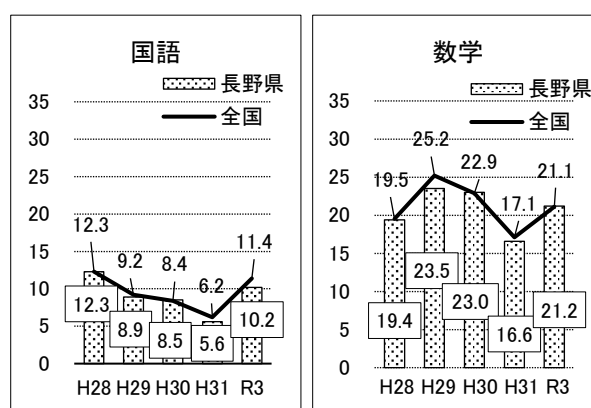
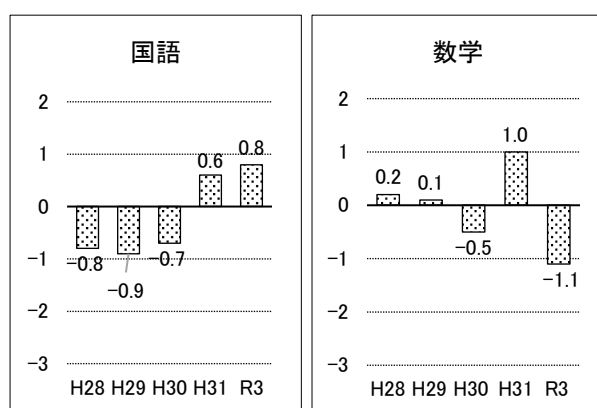
〔表Ⅱ-6〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数

	国語A	国語B	数学A	数学B
平成 28 年度	23 / 33	4 / 9	14 / 36	5 / 15
平成 29 年度	23 / 32	6 / 9	12 / 36	5 / 15
平成 30 年度	15 / 32	6 / 9	15 / 36	5 / 14
	国語		数学	
平成 31 年度	4 / 10		6 / 16	
令和 3 年度	8 / 14		10 / 16	

〔グラフⅡ-10〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（％）



〔グラフⅡ-11〕 記述問題の全国平均正答率との差（％）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇平成 31 年度，令和 3 年度の国語の記述問題の平均正答率は，全国を上回っている。  
 (グラフⅡ-11)

◇令和 3 年度の国語の記述問題における平均無答率は，全国を下回っている。(グラフⅡ-12)

◇国語，数学とも，全国の平均正答率を上回った設問の割合が一昨年度より上昇している。  
 (グラフⅡ-10)

③ 小学校の経年変化（分布に着目した経年の状況）と分析

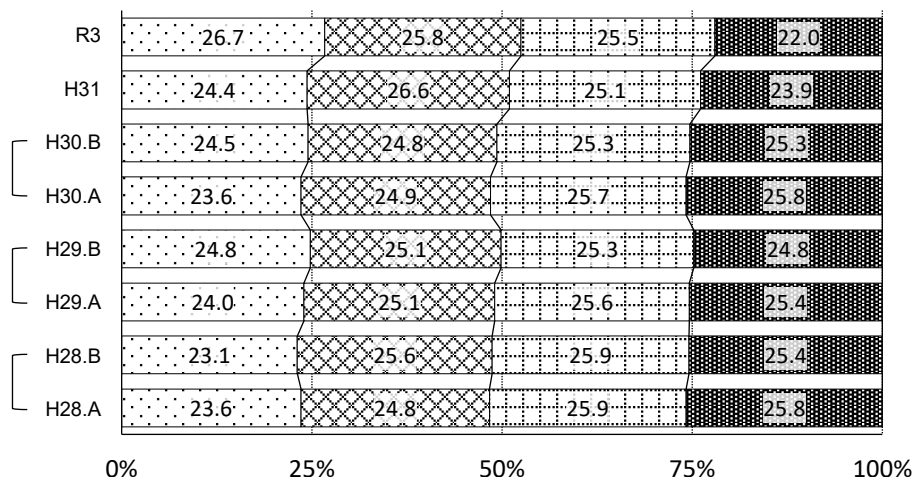
i) 分布に着目した経年の状況

全国の受検者を正答数の多い順に並べ、上位から25%ずつ4分割(境界を含む階級の度数を按分することで、4等分となるよう補正)し、それぞれの区分をⅠ(上位25%以内)、Ⅱ(25%～50%)、Ⅲ(50%～75%)、Ⅳ(75%～100%)とした上で、各区分に入る長野県の児童の割合を求めた。

〔グラフⅡ-13〕 分布に着目した経年の状況

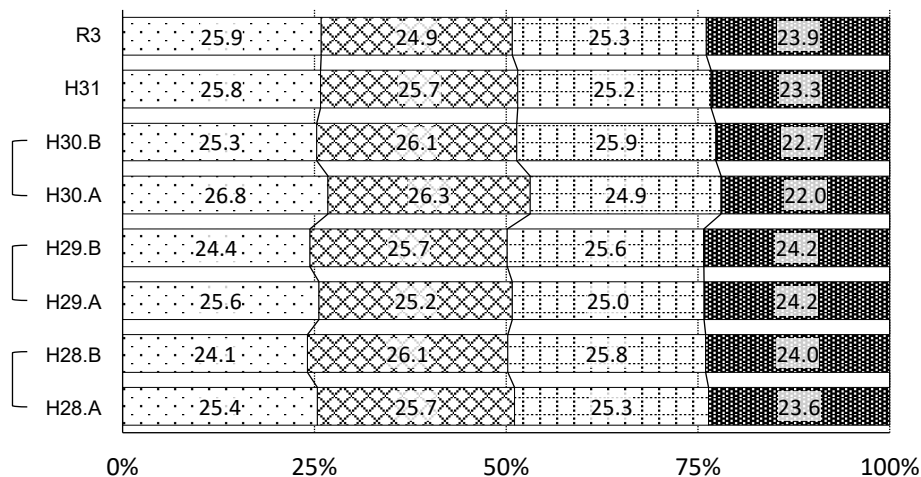
小・国語

□Ⅳ    ▨Ⅲ    ▩Ⅱ    ■Ⅰ



小・算数

□Ⅳ    ▨Ⅲ    ▩Ⅱ    ■Ⅰ



ii) 分析      ◇ : 成果    ◆ : 課題

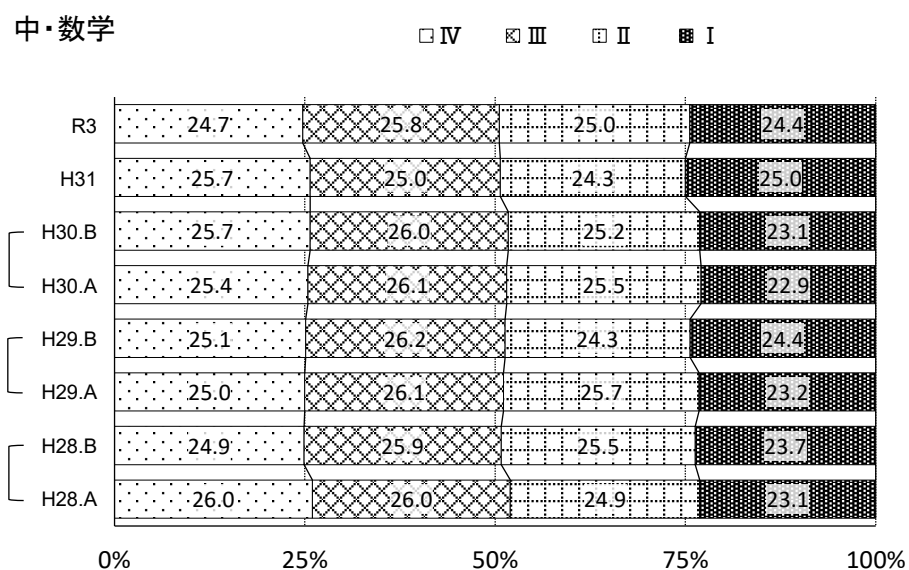
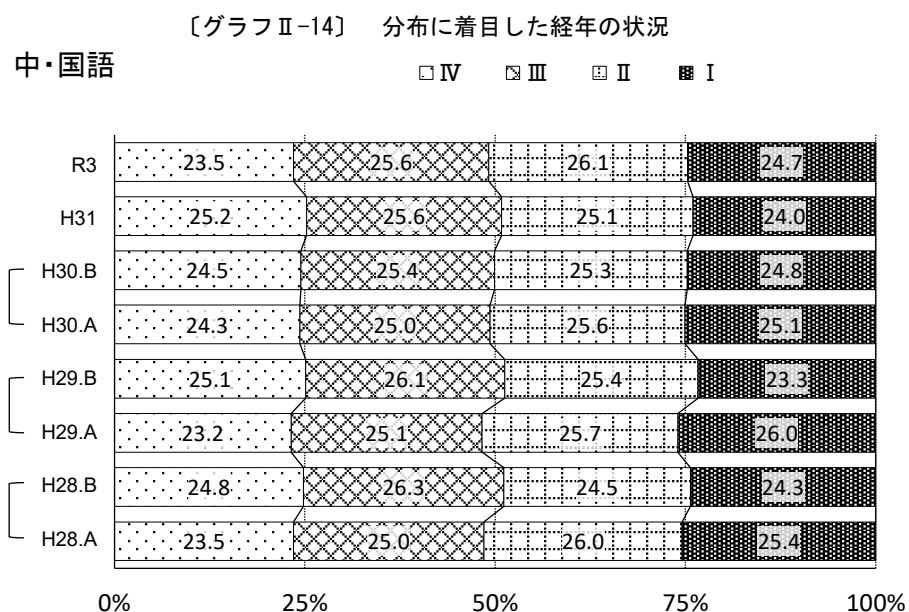
◇算数はⅠ層の割合が一昨年度よりも増加したことから、上位層の割合が一昨年度と比べて増加していることがわかる。(グラフⅡ-13)

◆国語はⅠ層の割合が一昨年度よりも減少し、Ⅳ層の割合が一昨年度よりも増加したことから、上位層の割合が一昨年度と比べて減少し、下位層の割合が一昨年度よりも増加していることがわかる。(グラフⅡ-13)

◆算数はⅣ層の割合が25%を上回っている状態が続いている。(グラフⅡ-13)

④ 中学校の経年変化（分布に着目した経年の状況）と分析

i) 分布に着目した経年の状況



ii) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◇数学はIV層の割合が一昨年度よりも減少したことから、下位層の割合が一昨年度と比べて減少していることがわかる。(グラフⅡ-14)

◇国語はI層の割合が一昨年度よりも増加し、IV層が一昨年度よりも減少したことから、上位層の割合が一昨年度と比べて増加し、下位層の割合が一昨年度と比べて減少していることがわかる。(グラフⅡ-14)

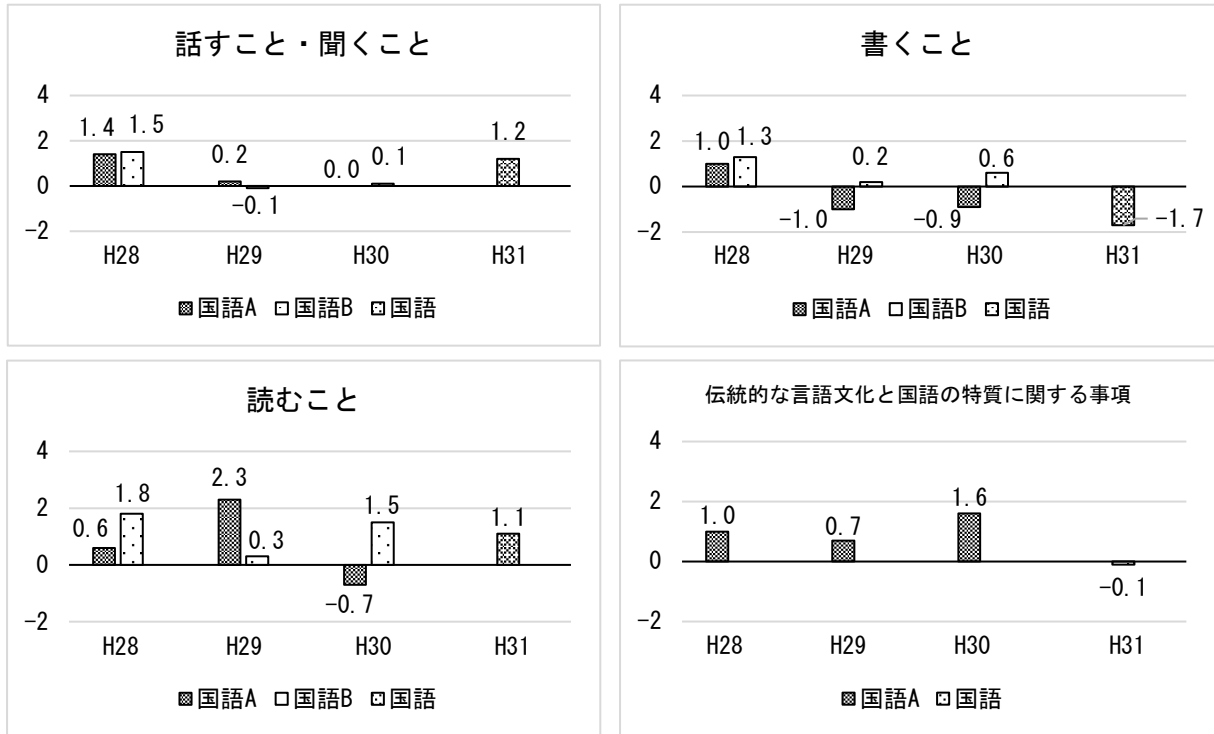
◆数学はI層の割合が一昨年度よりも減少したことから、上位層の割合が一昨年度と比べて減少していることがわかる。(グラフⅡ-14)

⑤ 小学校国語の経年変化と分析

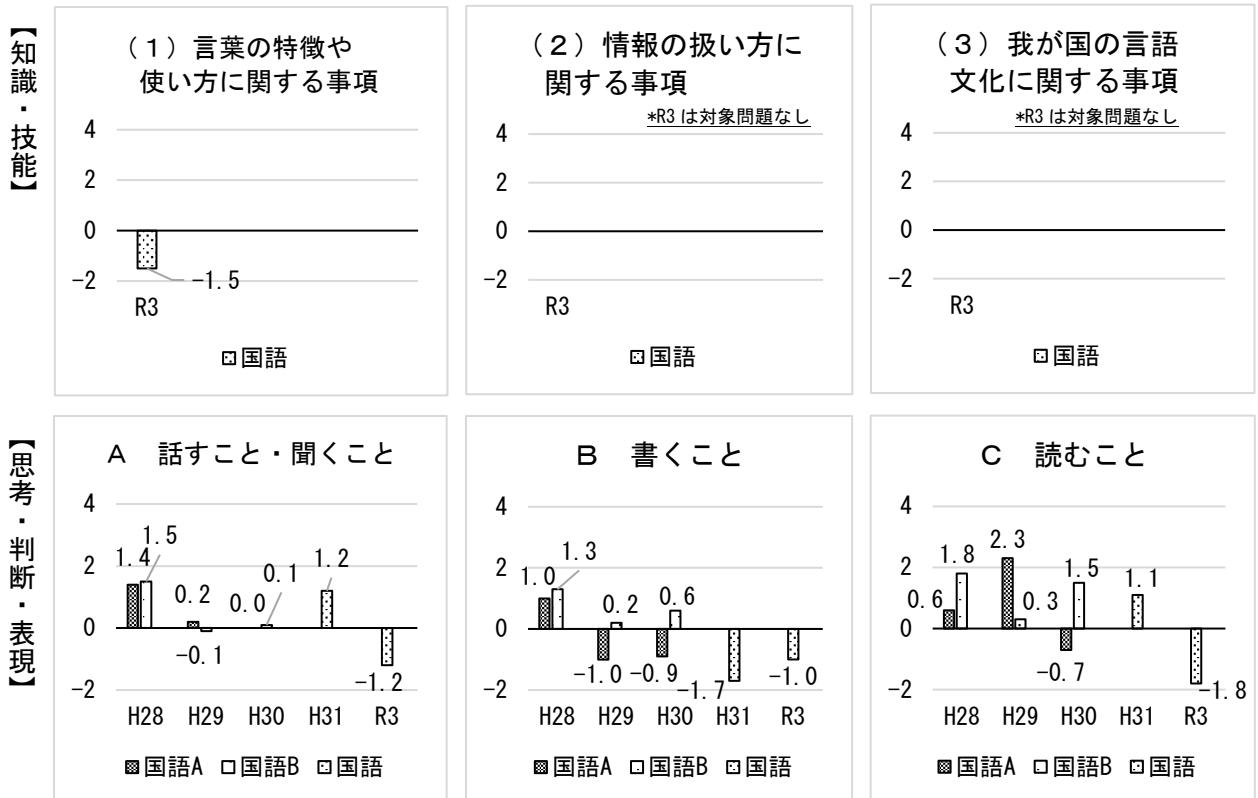
i) 内容（領域）、問題形式ごとの経年変化の状況

平成 28 年度から今年度までの内容（領域）と問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

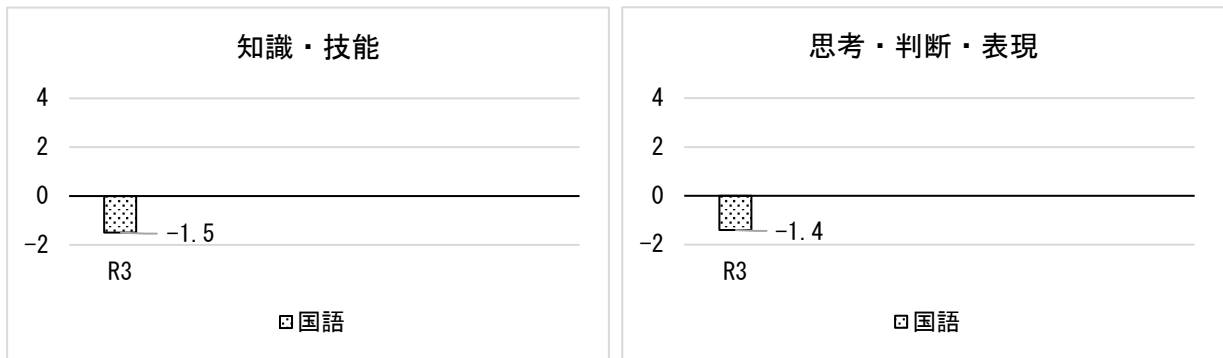
〔グラフⅡ-15〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）（H28～H31）



〔グラフⅡ-16〕 内容ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）



[グラフⅡ-17] 観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



ii) 分析      ◇ : 成果    ◆ : 課題

◆言葉の特徴や使い方に関する事項の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-16)

◆話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの平均正答率は、全国を下回っている。  
(グラフⅡ-16)

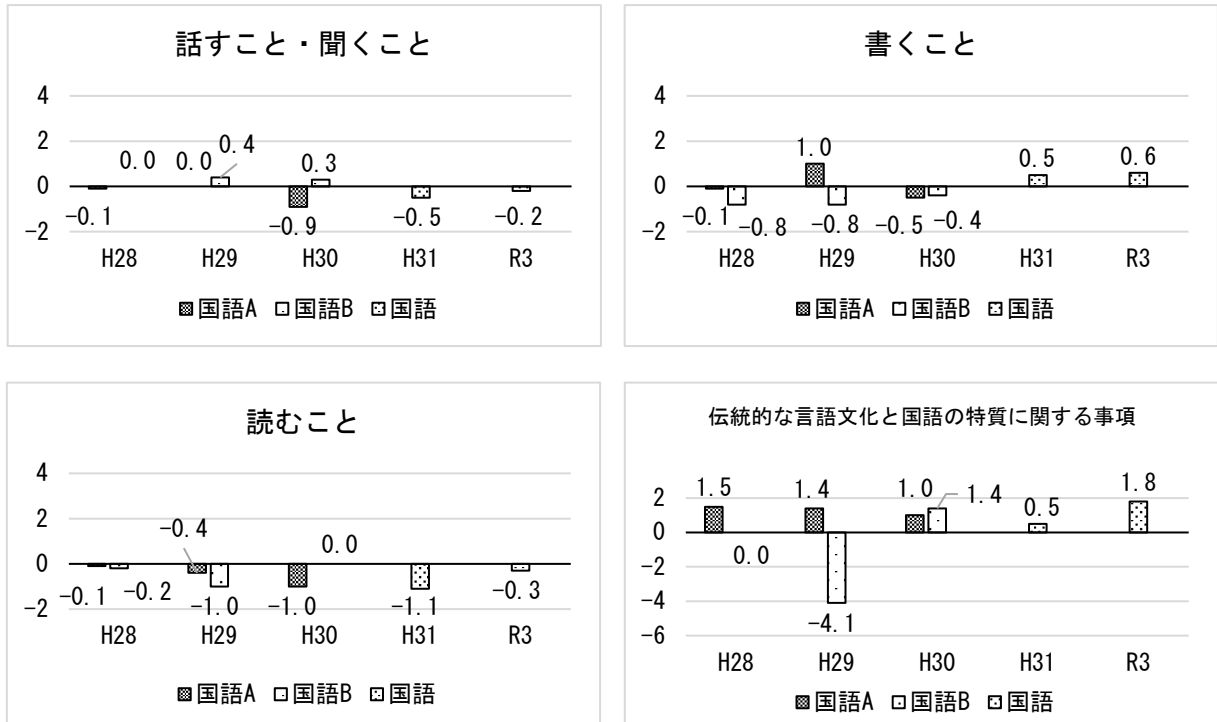
◆知識・技能、思考・判断・表現の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-17)

⑥ 中学校国語の経年変化と分析

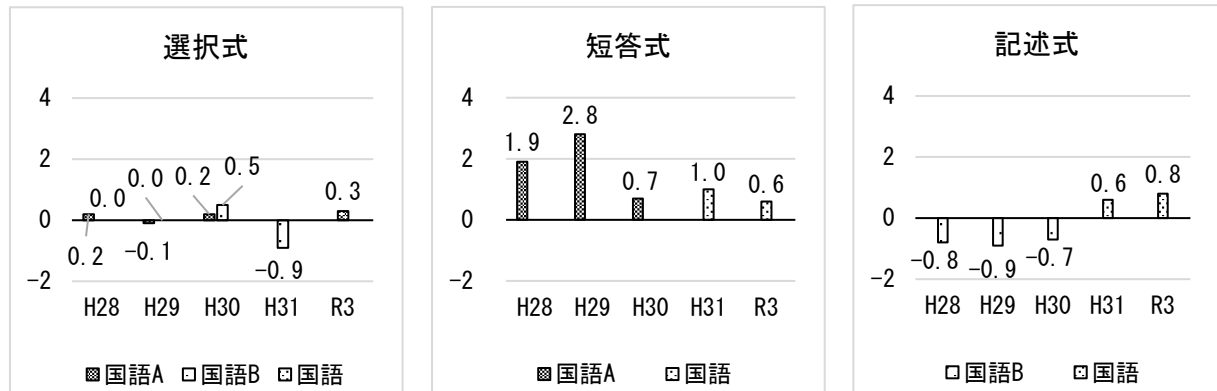
i) 領域、問題形式ごとの経年変化の状況

小学校国語と同様に、中学校国語についても領域と問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-18〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



〔グラフⅡ-19〕 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



ii) 分析 ◇: 成果 ◆: 課題

◇書くこと，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項，記述式の平均正答率は，昨年度に続き全国を上回っている。(グラフⅡ-18, 19)

◇短答式の平均正答率は，全国を上回る状況が続いている。(グラフⅡ-19)

◆話すこと・聞くこと，読むこと平均正答率は，全国を下回る状況が続いている。

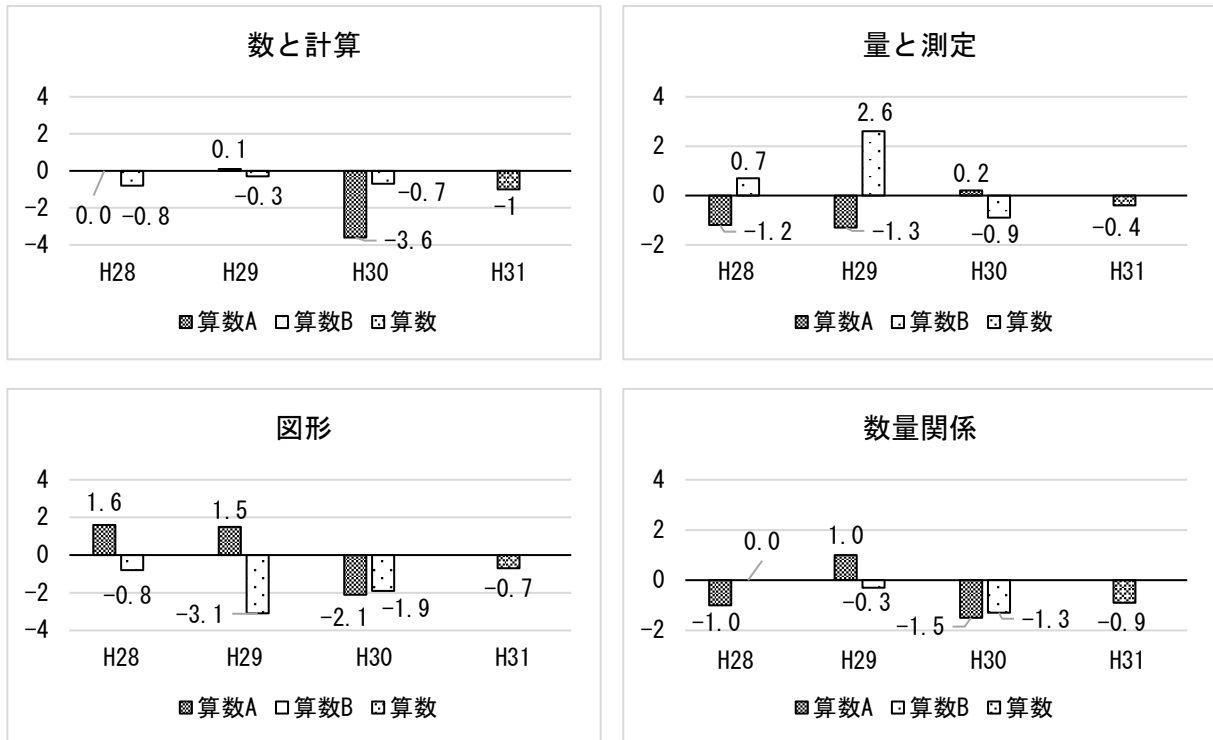
(グラフⅡ-18)

⑦ 小学校算数の経年変化と分析

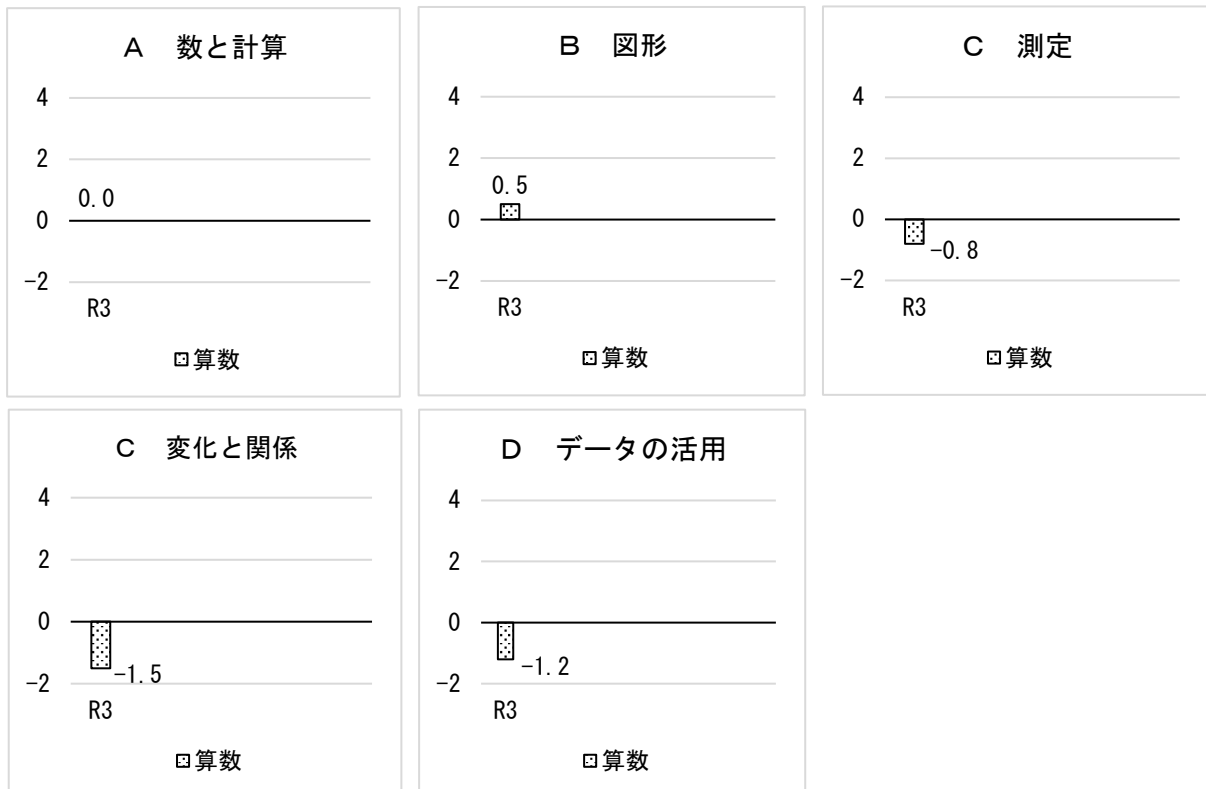
i) 領域、観点ごとの経年変化の状況

平成28年度から今年度までの領域と観点ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-20〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (H28~H31)

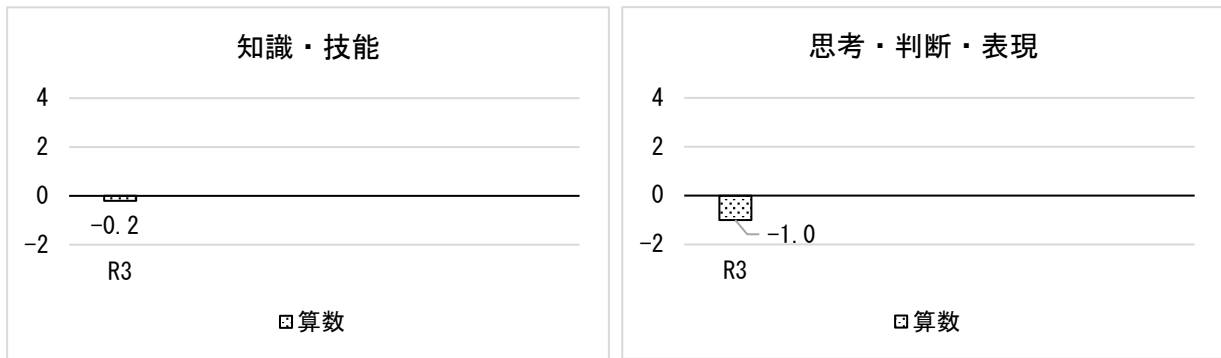


〔グラフⅡ-21〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)





〔グラフⅡ-22〕 観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



ii) 分析      ◇：成果    ◆：課題

◇図形の平均正答率は全国を上回っている。(グラフⅡ-21)

◆測定、変化と関係、データの活用の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-21)

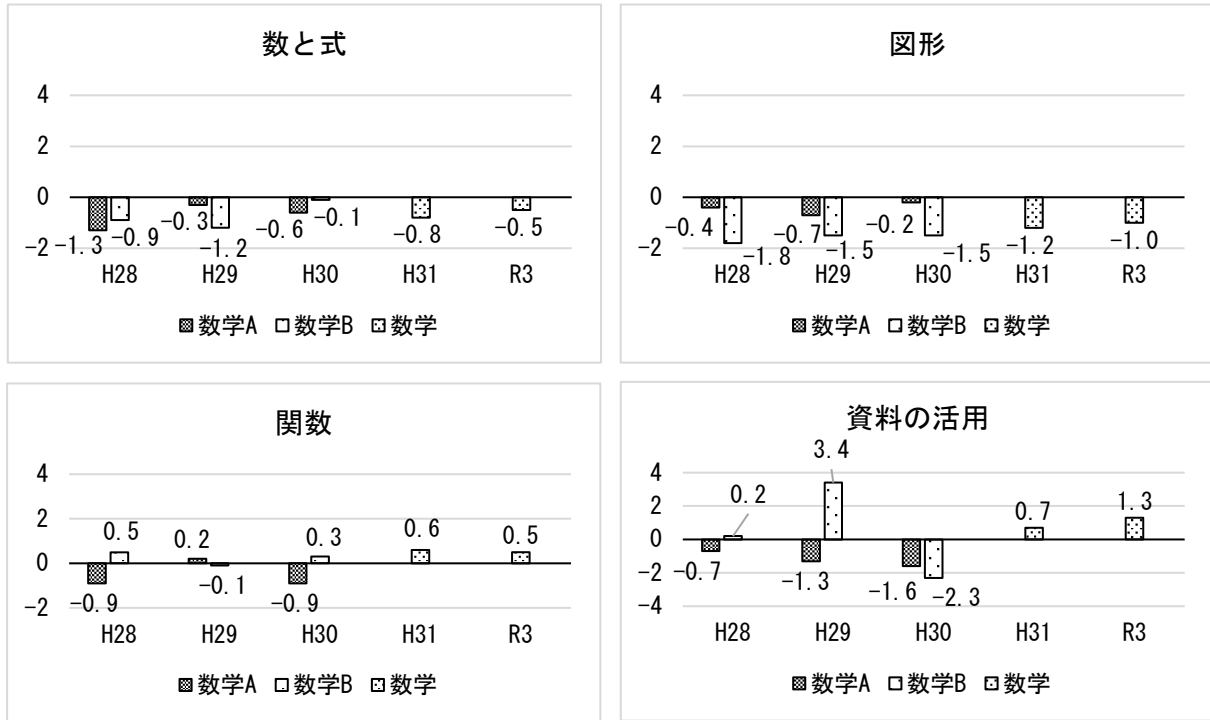
◆知識・技能、思考・判断・表現の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-22)

⑧ 中学校数学の経年変化と分析

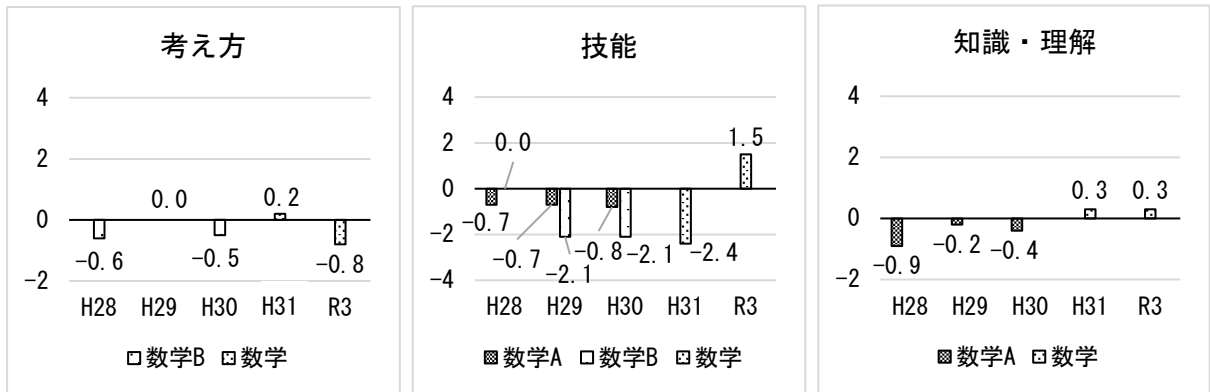
i) 領域、観点ごとの経年変化の状況

算数と同様に、数学についても領域と観点ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-23〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



〔グラフⅡ-24〕 観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



ii) 分析 ◇: 成果 ◆: 課題

◇関数, 資料の活用領域の平均正答率は, 昨年に続き全国を上回っている。(グラフⅡ-23)

◇技能, 知識・理解の平均正答率は, 全国を上回っている。(グラフⅡ-24)

◆数と式, 図形の平均正答率は, 全国を下回る状況が続いている。(グラフⅡ-23)

◆考え方の平均正答率は, 全国を下回った。(グラフⅡ-24)

## 2 質問紙調査の結果と分析

### (1) 令和3年度 質問紙調査の結果と分析

児童生徒を対象とする質問紙調査と、学校（教師）を対象とする質問紙調査の項目を分類<sup>(※1)</sup>し、それぞれを〔児童生徒〕、〔学校運営〕に整理し、領域ごとに全国を100としてスコア化<sup>(※2)</sup>した。

〔児童生徒〕、〔学校運営〕の領域は次のとおりである。

〔児童〕 6領域, 〔生徒〕 7領域

- ・学習に対する関心・意欲・態度
  - ✓ 算数・数学への関心等
  - ✓ 英語への関心等(〔生徒〕のみ)
  - ✓ 地域・社会への関心等
- ・自己及び社会に対する認識
  - ✓ 規範意識
  - ✓ 自尊感情
- ・学習の基盤となる活動・習慣
  - ✓ 生活習慣
  - ✓ 学習習慣

〔小学校運営〕 6領域, 〔中学校運営〕 7領域

- ・教科指導
  - ✓ 個に応じた指導
  - ✓ 算数・数学科の指導法
  - ✓ 英語の指導法(〔中学校運営〕のみ)
- ・学力向上
  - ✓ 学力向上に向けた取組・指導方法
  - ✓ 家庭学習
- ・学校経営
  - ✓ 地域の人材・施設の活用
  - ✓ 教員研修・教職員の取組

※1：各領域に対応する質問項目は、文部科学省が結果チャートを作成する際に用いた分類に準ずる。

※2：該当する領域に含まれる個別の質問項目の回答結果の割合を基に基礎値を算出し、領域ごとの平均値を算出する。全国の平均値に対する長野県の平均値を各領域のスコアとして事務局でスコアを算出した。

① 小学校調査

i) 結果

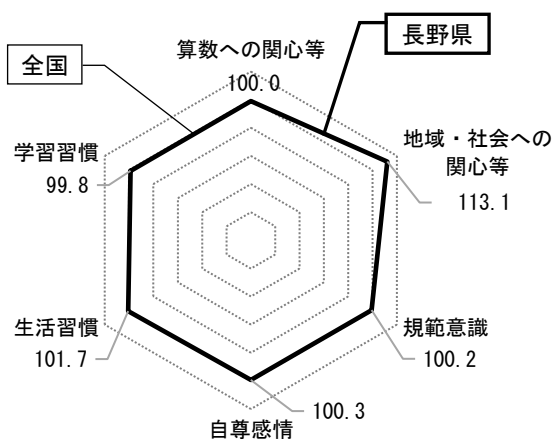
〔表Ⅱ-7〕 〔児童〕のスコア（小学校）

領域名		スコア
学習に対する 関心・意欲・態度	算数への関心等	100.0
	地域・社会への関 心等	113.1
自己及び社会に 対する認識	規範意識	100.2
	自尊感情	100.3
学習の基盤となる 活動・習慣	生活習慣	101.7
	学習習慣	99.8

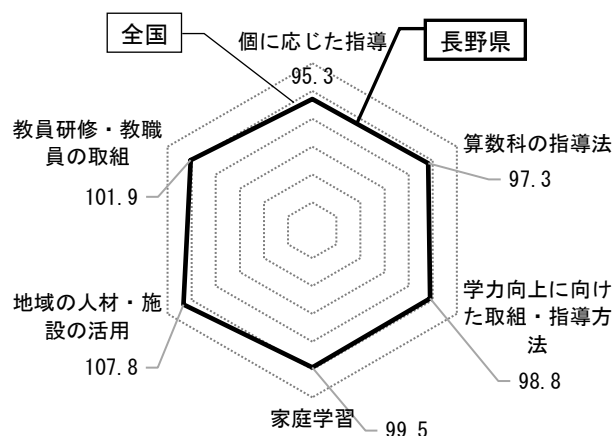
〔表Ⅱ-8〕 〔学校運営〕のスコア（小学校）

領域名		スコア
教科指導	個に応じた指導	95.3
	算数科の指導法	97.3
学力向上	学力向上に向けた取組・ 指導方法	98.8
	家庭学習	99.5
学校経営	地域の人材・施設の活用	107.8
	教員研修・教職員の取組	101.9

〔グラフⅡ-25〕 〔児童〕のスコア（小学校）



〔グラフⅡ-26〕 〔学校運営〕のスコア（小学校）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇〔児童〕のスコアは、いずれの領域においても概ね全国と同程度である。目立つものとして、地域・社会への関心が13ポイント以上、全国を上回っている。（表Ⅱ-7）

◇〔学校運営〕では、地域の人材・施設の活用、教員研修・教職員の取組が全国平均を上回っている。（表Ⅱ-8）

◆〔学校運営〕では、教科指導、学力向上の領域における項目が全国平均を下回っている。特に、個に応じた指導のスコアは全国平均を5ポイント近く下回っている。（表Ⅱ-8）

② 中学校調査

i) 結果

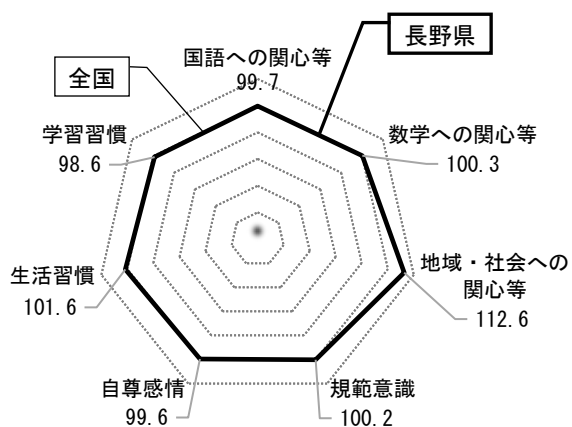
〔表Ⅱ-9〕 〔生徒〕のスコア（中学校）

領域名		スコア
学習に対する 関心・意欲・態度	国語への関心等	99.7
	数学への関心等	100.3
	地域・社会への関心等	112.6
自己及び社会に 対する認識	規範意識	100.2
	自尊感情	99.6
学習の基盤となる 活動・習慣	生活習慣	101.6
	学習習慣	98.6

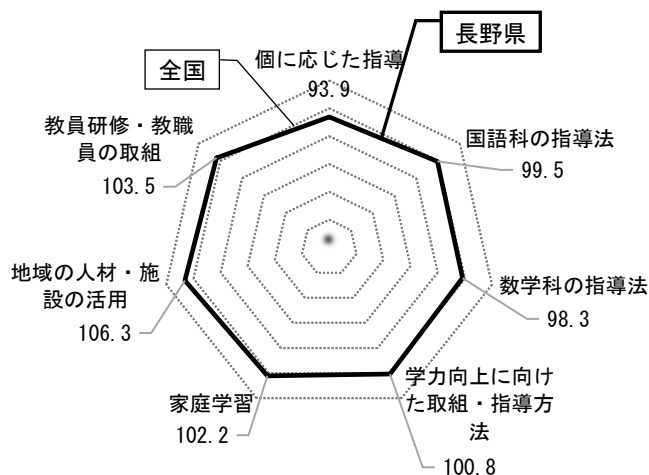
〔表Ⅱ-10〕 〔学校運営〕のスコア（中学校）

領域名		スコア
教科指導	個に応じた指導	93.9
	国語科の指導法	99.5
	数学科の指導法	98.3
学力向上	学力向上に向けた取組・指導方法	100.8
	家庭学習	102.2
学校経営	地域の人材・施設の活用	106.3
	教員研修・教職員の取組	103.5

〔グラフⅡ-27〕 〔生徒〕のスコア（中学校）



〔グラフⅡ-28〕 〔学校運営〕のスコア（中学校）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇〔生徒〕のスコアは、国語への関心等、自尊感情、学習習慣を除いた項目では全国と同程度または全国を上回っている。（表Ⅱ-9）

◇〔学校運営〕の学力向上、学校経営で全国平均を上回っている。特に、地域人材・施設の活用は6ポイント上回っている。（表Ⅱ-10）

◆〔生徒〕では、学習習慣のスコアが、全国平均と比べて約2ポイント下回っている。（表Ⅱ-9）

◆〔学校運営〕では、教科指導のスコアが、全国平均を下回っている。（表Ⅱ-10）

(2) 過去5回（平成28年度～令和3年度）の調査結果の経年変化と分析

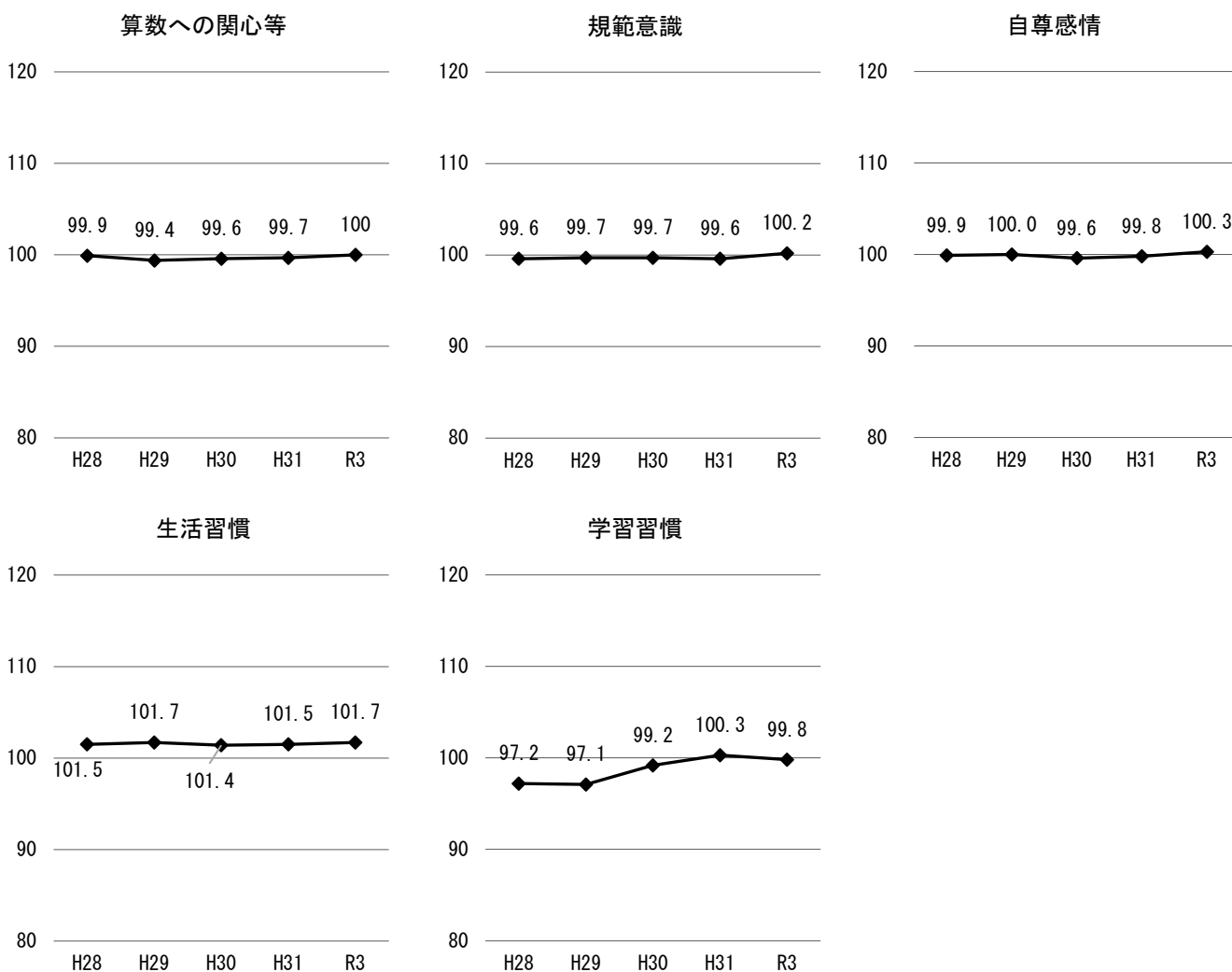
① 小学校調査

i) 経年変化

〔表Ⅱ-11〕 〔児童〕のスコアの経年変化

領域名		H28	H29	H30	H31	R3
学習に対する 関心・意欲・態度	国語への関心等	100.1	100.5	100.3	100.3	100.5
	算数への関心等	99.9	99.4	99.6	99.7	100.0
	総合的な学習の時間への関心等	99.2	96.3	95.5	95.5	96.1
自己及び社会に 対する認識	規範意識	99.6	99.7	99.7	99.6	100.2
	自尊感情	99.9	100.0	99.6	99.8	100.3
学習の基盤と なる活動・習慣	言語活動・読解力	99.3	99.4	98.0	98.0	100.1
	生活習慣	101.5	101.7	101.4	101.5	101.7
	学習習慣	97.2	97.1	99.2	100.3	99.8

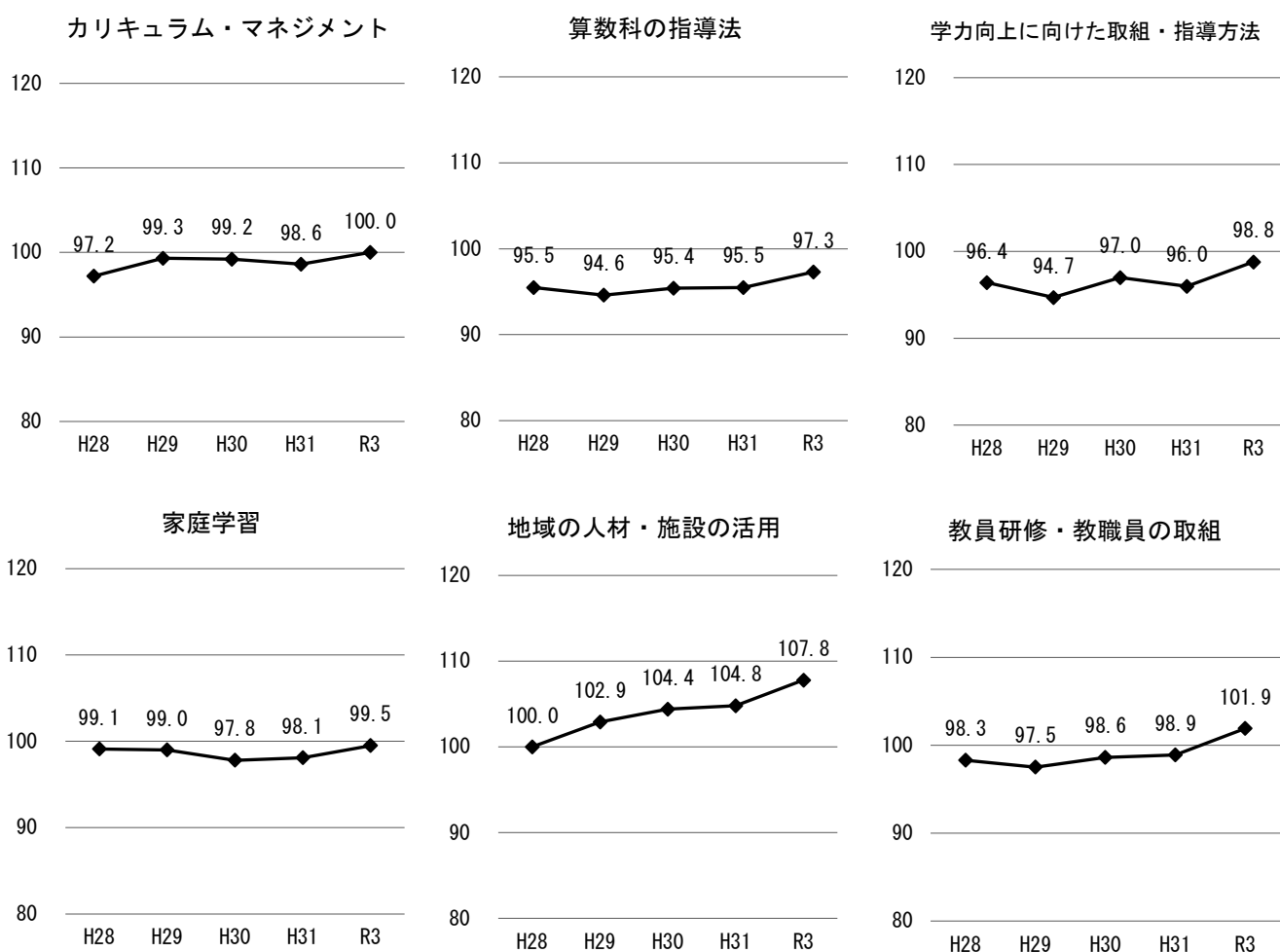
〔グラフⅡ-29〕 〔児童〕のスコアの経年変化



〔表Ⅱ-12〕 〔学校運営〕 のスコアの経年変化

領域名		H28	H29	H30	H31	R3
教科指導	カリキュラム・マネジメント	97.2	99.3	99.2	98.6	100.0
	国語科の指導法	96.8	96.6		95.5	98.0
	算数科の指導法	95.5	94.6	95.4	95.5	97.3
学力向上	児童の状況	99.1	99.2		99.1	
	学力向上に向けた取組・指導方法	96.4	94.7	97.0	96.0	98.8
	家庭学習	99.1	99.0	97.8	98.1	99.5
学校経営	地域の人材・施設の活用	100.0	102.9	104.4	104.8	107.8
	教員研修・教職員の取組	98.3	97.5	98.6	98.9	101.9

〔グラフⅡ-30〕 〔学校運営〕 のスコアの経年変化



ii) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◆ [児童] 学習習慣はスコアが下がり、全国平均を少し下回っている。総合的な学習の時間への関心等は5年間、全国平均を下回っている。(表Ⅱ-11)

◇ [学校運営] 地域の人材・施設の活用では4年間スコアの上昇が続いている。教育研修・教職員の取組も3年間スコアの上昇が続いている。(表Ⅱ-12)

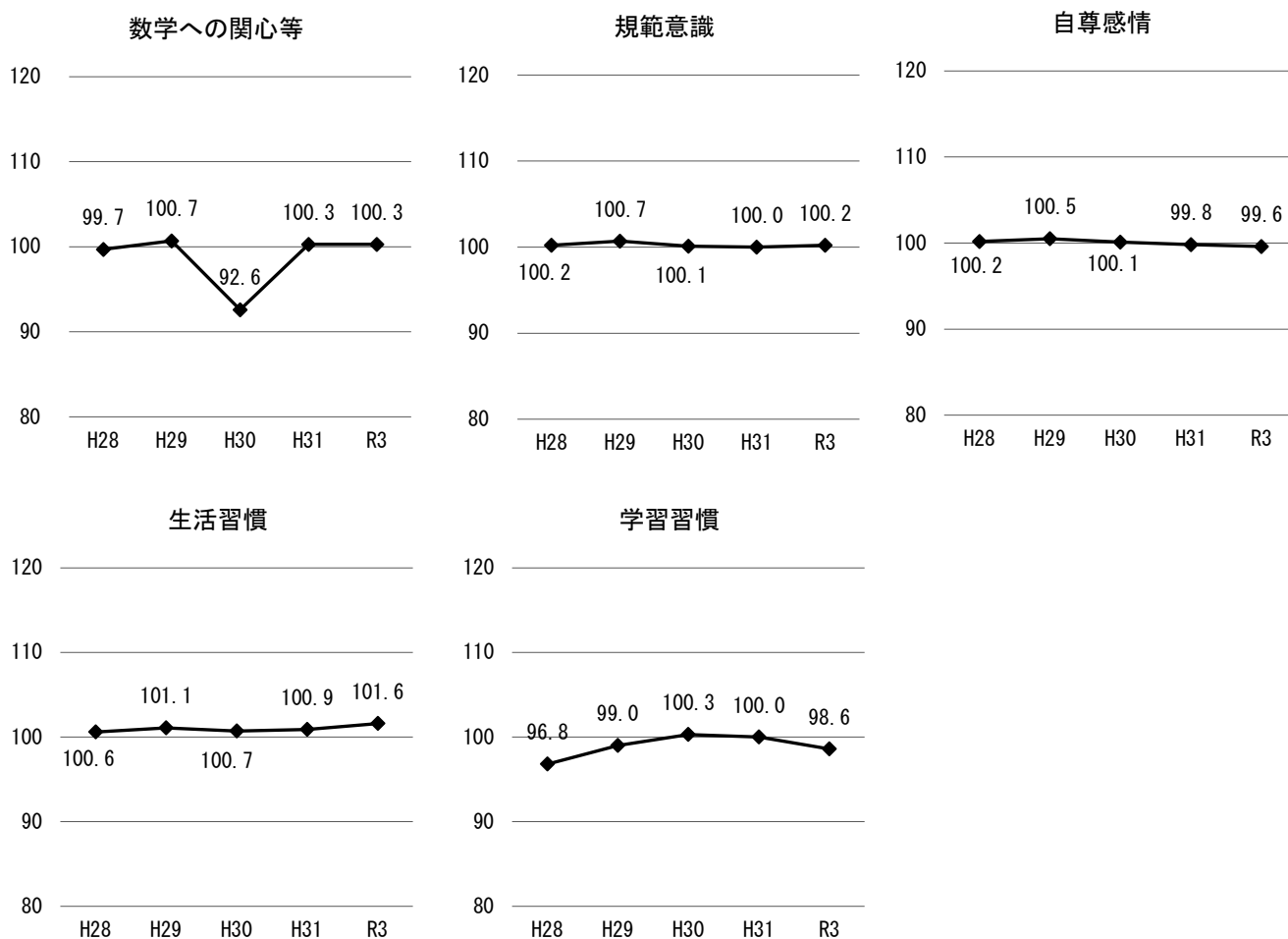
② 中学校調査

i) 経年変化

〔表Ⅱ-13〕 〔生徒〕のスコアの経年変化

領域名		H28	H29	H30	H31	R3
学習に対する 関心・意欲 ・態度	国語への関心等	99.7	100.9		94.6	99.7
	数学への関心等	99.7	100.7	92.6	100.3	100.3
	総合的な学習の 時間への関心等	96.4	96.1		95.6	98.0
自己及び社会に対 する認識	規範意識	100.2	100.7	100.1	100.0	100.2
	自尊感情	100.2	100.5	100.1	99.8	99.6
学習の基盤となる 活動 ・習慣	言語活動・読解力	99.8	99.2		99.9	99.8
	生活習慣	100.6	101.1	100.7	100.9	101.6
	学習習慣	96.8	99.0	100.3	100.0	98.6

〔グラフⅡ-31〕 〔生徒〕のスコアの経年変化

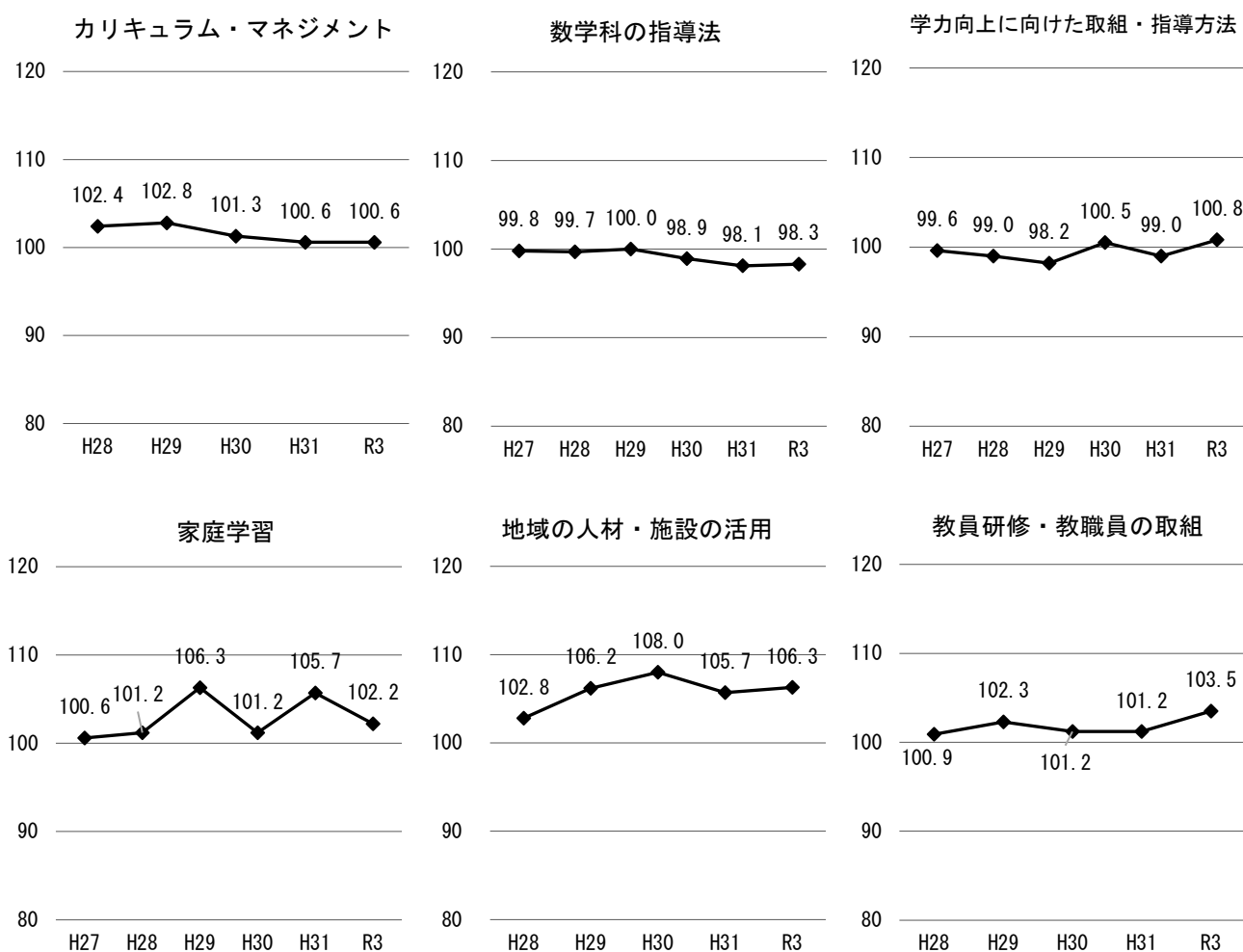




〔表Ⅱ-14〕 〔学校運営〕のスコアの経年変化

領域名		H28	H29	H30	H31	R3
教科指導	カリキュラム・マネジメント	102.4	102.8	101.3	100.6	100.6
	国語科の指導法	99.5	100.4		98.0	99.5
	数学科の指導法	99.7	100.0	98.9	98.1	98.3
学力向上	生徒の状況	101.4	101.3		101.7	
	学力向上に向けた取組・指導方法	99.0	98.2	100.5	99.0	100.8
	家庭学習	101.2	106.3	101.2	105.7	102.2
学校経営	地域の人材・施設の活用	102.8	106.2	108.0	105.7	106.3
	教員研修・教職員の取組	100.9	102.3	101.2	101.2	103.5

〔グラフⅡ-32〕 〔学校運営〕のスコアの経年変化



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

- ◇ [生徒] 学習習慣のスコア以外は、全国と同程度または全国を上回っている。(グラフⅡ-31)
- ◇ [学校運営] 地域の人材・施設の活用及び教員研修・教職員の取組のスコアは、上昇傾向が見られる。(グラフⅡ-32)
- ◆ [生徒] 学習習慣のスコアは、下降傾向が見られる。(表Ⅱ-31)
- ◆ [学校運営] 家庭学習のスコアは、降下降傾向が見られる。(グラフⅡ-32)

### III 全国の分析との比較

今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、国立教育政策研究所のウェブページに掲載されている。このうち、「令和3年度全国学力・学習状況調査の結果」で取り上げられている項目と関連させて、長野県の結果をまとめた。

#### ○ 調査概要

(1) 調査実施日：令和3年5月27日（木）

(2) 調査事項：① 児童生徒に対する調査

- ア 教科に関する調査（国語，算数・数学） イ 質問紙調査（児童生徒質問紙調査）  
 ② 学校に対する調査（学校質問紙調査）

(3) 調査対象及び集計対象児童生徒・学校数

	小学校		中学校	
	児童数	学校数	生徒数	学校数
	5月27日(木)に調査を実施した児童数	5月27日(木)に調査を実施した学校数	5月27日(木)に調査を実施した児童数	5月27日(木)に調査を実施した学校数
長野県(公立)	16,382人	359校	16,391人	193校
全 国(公立)	994,101人	18,857校	903,253人	9,320校

※調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

(4) 教科の調査結果

長野県（公立）の平均正答数・平均正答率 [上段]：平均正答数/設定問題数 [下段]：平均正答率

校種	年度 教科	令和3年度		年度 教科	平成31年度（令和元年度）	
		長野県	全国		長野県	全国
小学校	国語	8.9/14問 63%	9.1/14問 64.7%	国語	8.9/14問 64%	8.9/14問 63.8%
	算数	11.1/16問 70%	11.2/16問 70.2%	算数	9.2/14問 66%	9.3/14問 66.6%
中学校	国語	9.1/14問 65%	9.0/14問 64.6%	国語	7.3/10問 73%	7.3/10問 72.8%
	数学	9.1/16問 57%	9.1/16問 57.2%	数学	9.5/16問 60%	9.6/16問 59.8%

※文部科学省において、平均正答率の微少な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

(5) 今年度の調査について

- ・新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮し、実施日程の変更（例年より約1か月後ろ倒し）
- ・平成25年度，28年度に続く第3回目となる「経年変化分析調査」，平成25年度，29年度に続く第3回目となる「保護者に対する調査」を実施

## 1 教科に関する調査結果

(注) □…全国の平均正答率を上回る主な設問  
■…全国の平均正答率を下回る主な設問  
●…全国の平均正答率と同等な主な設問

### 小学校国語

□学年別漢字配当表に示されている漢字を文  
の中で正しく使う。

丸山さんの【文章の下書き】の中の——部アを、漢  
字を使って書き直す設問 (ころがっている)  
【大問3 設問三(1)ア】79.3%(全国比 +1.0)

●文の中における主語と述語との関係を捉え  
る。

丸山さんの【文章の下書き】の中の——部イで、～  
部「残されています」の主語として適切なものを選  
択する  
【大問3 設問三(2)イ】67.0%(全国比 ±0.0)

■学年別漢字配当表に示されている漢字を文  
の中で正しく使う。

丸山さんの【文章の下書き】の中の——部エを、漢  
字を使って書き直す設問 (げんいん)  
【大問3 設問三(1)エ】74.2%(全国比 -4.8)

■学年別漢字配当表に示されている漢字を文  
の中で正しく使う。

丸山さんの【文章の下書き】の中の——部ウを、漢  
字を使って書き直す設問 (つみ重ね)  
【大問3 設問三(1)ウ】50.7%(全国比 -3.7)

■目的を意識して、中心となる語や文を見付け  
て要約する。

面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナ  
ーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使わ  
れているのかをまとめて書く設問  
【大問2 設問四】27.4%(全国比 -2.3)

### 中学校国語

□事象や行為などを表す多様な語句について  
理解する。

「随時」の意味として適切なものを選択する設問  
【大問4 設問二】77.5%(全国比 +3.5)

□伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるよう  
に書く。

事前に確かめておきたいことについて相手に失礼  
のないように書く設問  
【大問4 設問四】75.2%(全国比 +3.3)

□書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の  
工夫を考える。

意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考  
えを書く設問  
【大問2 設問二】76.3%(全国比 +1.8)

■書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、  
段落相互の関係に注意して書く。

意見文の下書きを直した意図として適切なものを選  
択する設問  
【大問2 設問一】21.8%(全国比 -3.0)

■文章に表れているものの見方や考え方を捉  
え、自分の考えをもつ。

「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのよう  
な接し方をしているかや、そのような接し方をど  
う思うかを書く設問  
【大問3 設問四】18.6%(全国比 -1.9)

■登場人物の言動の意味を考え、内容を理解す  
る。

「反対の結果を呈出した」について、このことが  
分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す設問  
【大問3 設問三】69.8%(全国比 -1.2)

## 小学校算数

□三角形の面積の求め方について理解している。

〔直角三角形の面積を求める式と答えを書く設問  
【大問2 設問(1)】60.5%(全国比 +5.4)〕

□小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。

〔30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く設問  
【大問4 設問(3)】52.7%(全国比 +1.2)〕

□商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる。

〔8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く設問  
【大問4 設問(2)】55.8%(全国比 +0.3)〕

■データを二次元の表に分類整理することができる。

〔「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ設問  
【大問3 設問(3)】64.0%(全国比 -3.5)〕

■複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。

〔二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く。  
【大問2 設問(3)】43.1%(全国比 -2.9)〕

■速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる。

〔500mを歩くのに7分かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く設問  
【大問1 設問(2)】84.4%(全国比 -2.3)〕

## 中学校数学

□具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる。

〔数量の関係を一元一次方程式で表す設問  
【大問2】74.7%(全国比 +3.4)〕

□データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

〔「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する設問  
【大問8 設問(3)】14.6%(全国比 +3.5)〕

□与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。

〔与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める設問  
【大問7 設問(1)】94.5%(全国比 +1.0)〕

■目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

〔四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する設問  
【大問6 設問(2)】57.4%(全国比 -4.4)〕

■数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。

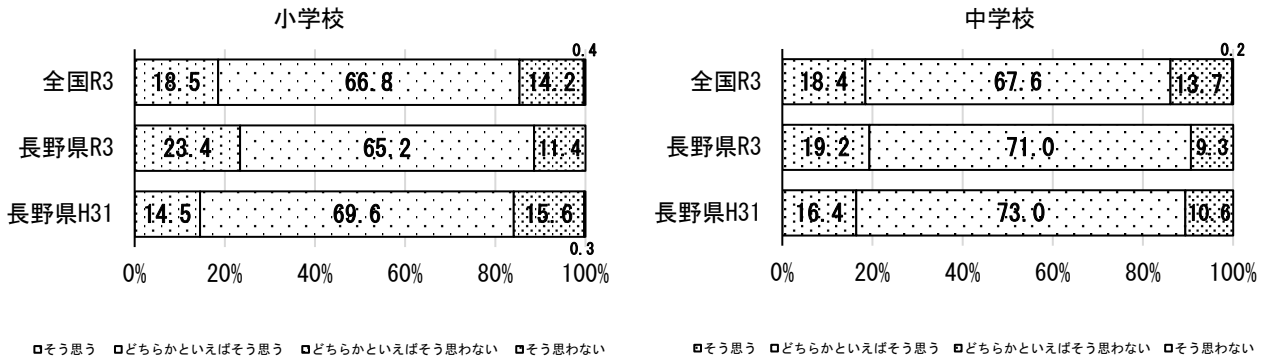
〔四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する設問  
【大問6 設問(3)】28.0%(全国比 -2.3)〕

■平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる。

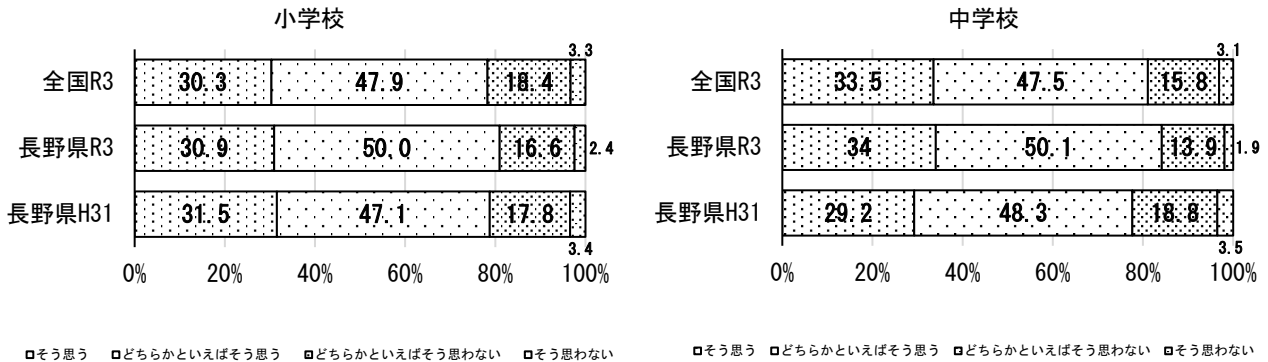
〔四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する設問  
【大問9 設問(1)】42.1%(全国比 -2.2)〕

## 2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

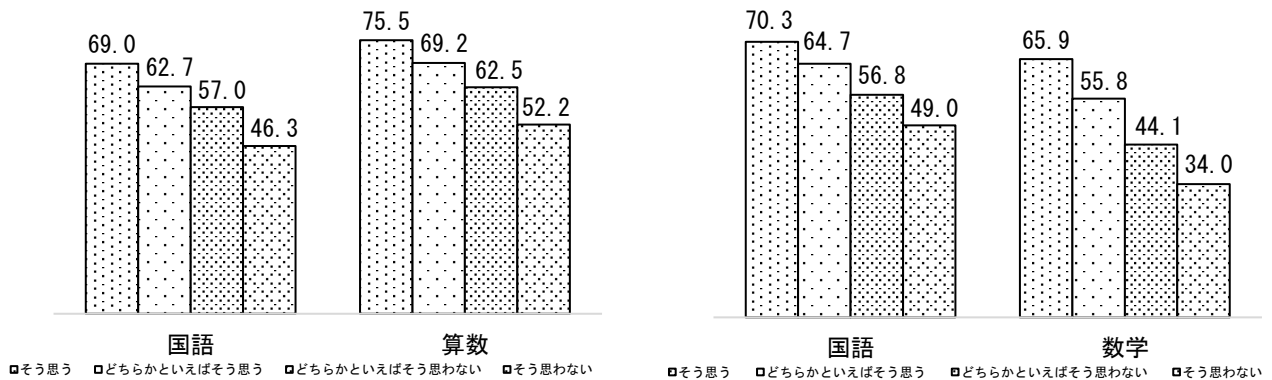
- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うか」との質問に肯定的に回答した小中学校の割合は平成 31 年度より増加している。また、この質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに 8 割を超え、全国平均を上回っている。
- この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。



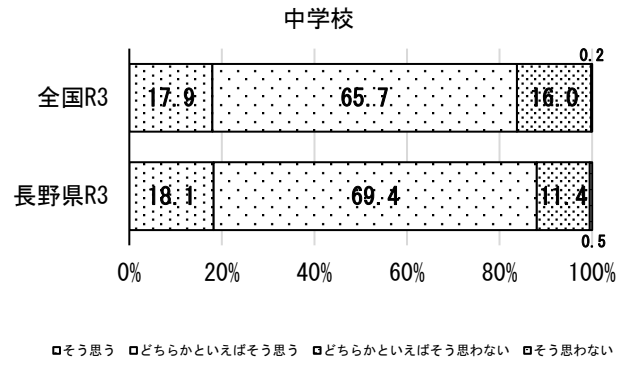
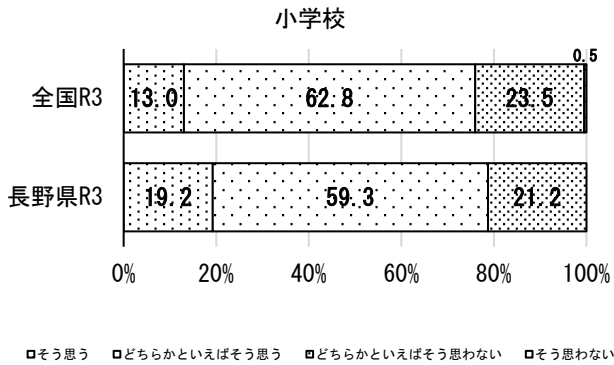
【児童生徒質問紙】 5年生まで（1，2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



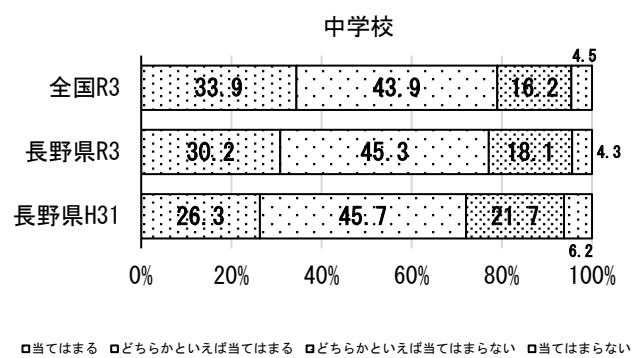
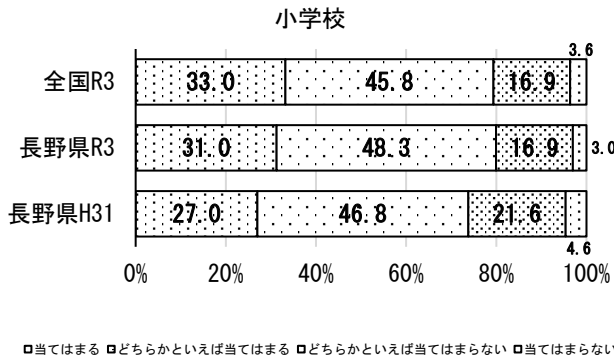
選択肢毎の平均正答率 (%)



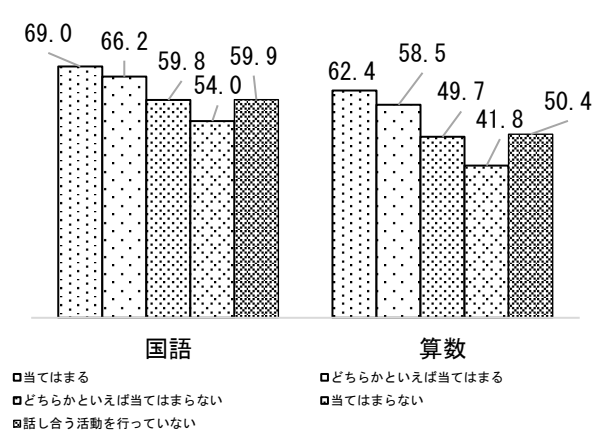
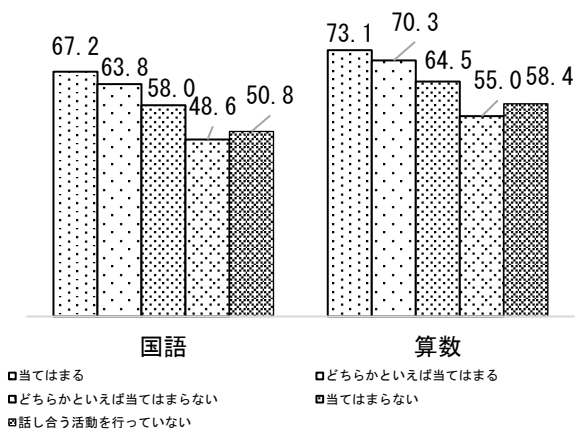
【学校質問紙】 児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



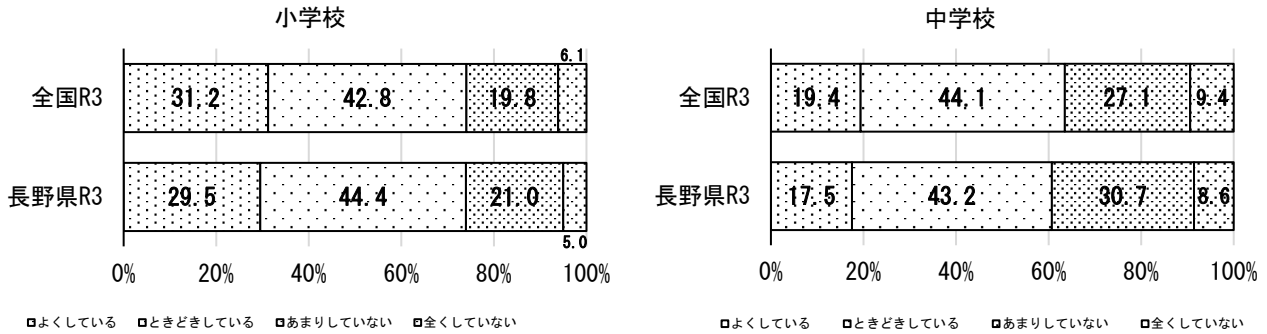
【児童生徒質問紙】 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



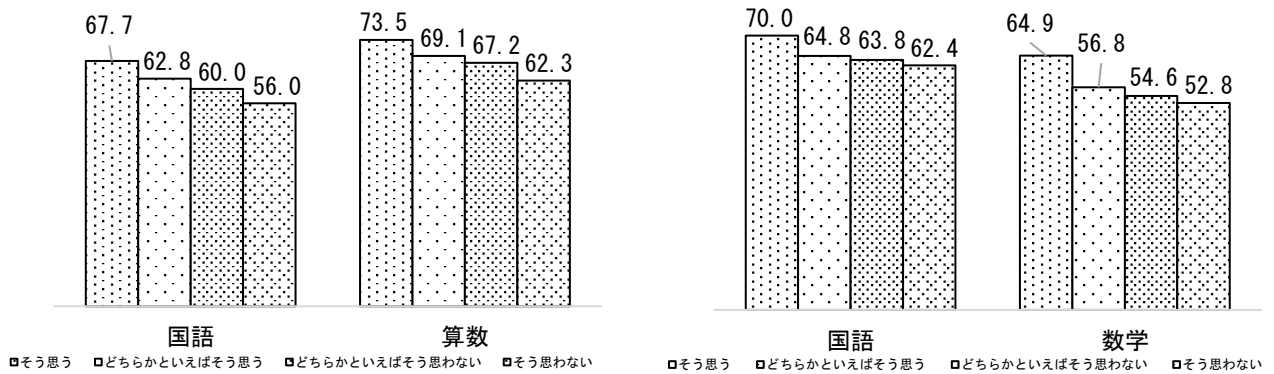
選択肢毎の平均正答率 (%)



【児童生徒質問紙】家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）



選択肢毎の平均正答率（%）

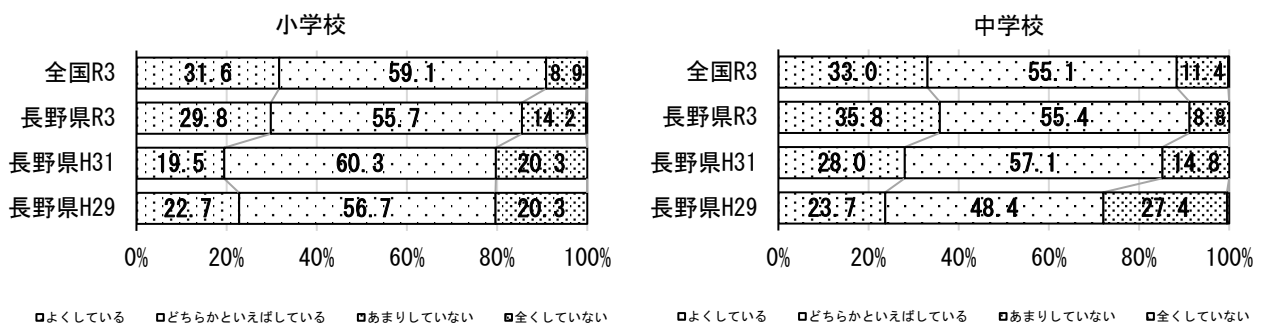


○「総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしているか」の質問に肯定的に回答した小中学校の割合は、増加傾向にある。また、中学校においては全国平均を上回っている。

○学級活動において、「互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成する」ことや「一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行う」ことについて、肯定的な回答をした小中学校の割合は9割を超えている。

○総合的な学習の時間や学級会等の特別活動に意欲的に取り組んでいる小中学校の方が、学級全員で挑戦する課題を与えることに、より取り組んでいる傾向が見られる。

【学校質問紙】総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか ※H30は質問項目なし。

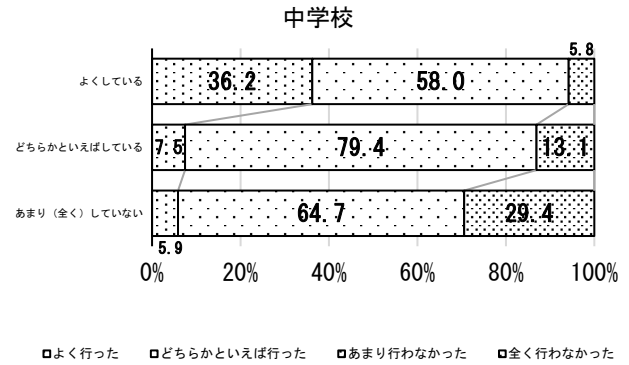
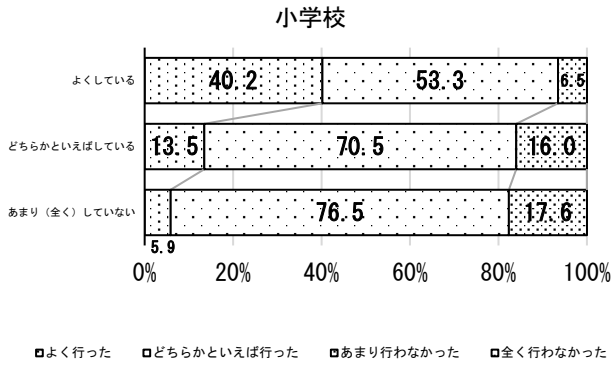


「総合的な学習の時間」と「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善」の関係

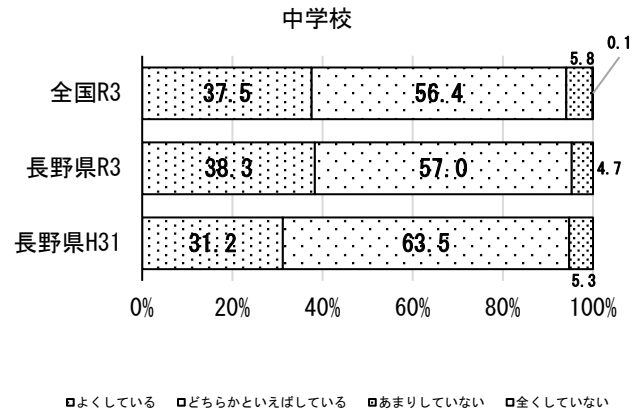
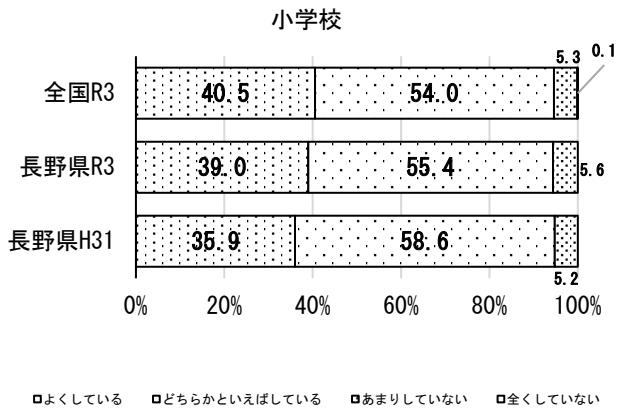
(学) 総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたか



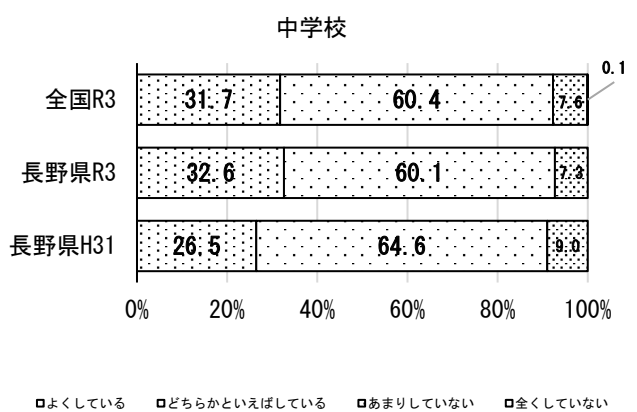
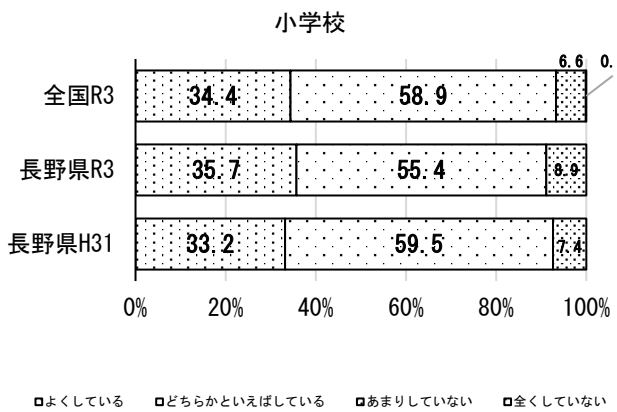
(学) 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたか



【学校質問紙】学級生活をよりよくするために、学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか



【学校質問紙】学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っていますか





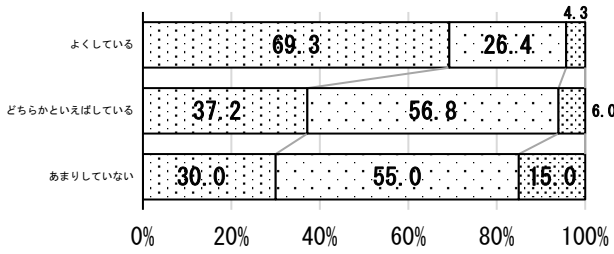
「学級活動」と「学級全員で挑戦する課題やテーマの付与」の関係

(学) 学級会で話し合い，互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っているか



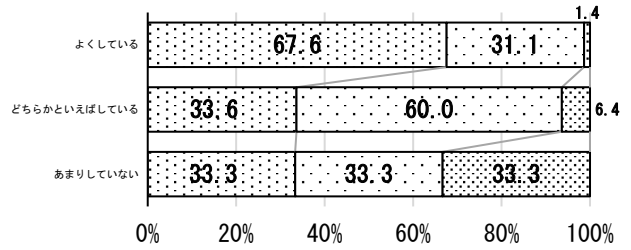
(学) 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか

小学校



そう思う     どちらかといえば思う     どちらかといえば思わない     そう思わない

中学校



そう思う     どちらかといえば思う     どちらかといえば思わない     そう思わない

### 3 教科に関する質問紙調査の状況 国語

① 小学校国語 児童の興味関心と小学校の指導状況 ※H30は質問項目なし。

- 国語に関する児童の興味・関心の「国語の勉強は大切だと思う」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」は増加傾向であるが、「国語の授業の内容は分かる」の項目は平成31年度と同程度であり、「国語の勉強が好き」は減少している。
- 学校における指導状況の「話したり聞いたりする授業を行った」「読む習慣を付ける授業を行った」は増加傾向であるが、「書く習慣を付ける授業を行った」は減少している。
- 「国語の勉強が好き」と回答した児童の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔児童の興味関心〕

〔小学校の指導状況〕

国語の勉強は好きですか

全国R3	22.7	35.7	27.2	14.3
長野県R3	22.4	39.4	27.4	10.7
長野県H31	26.7	40.1	24.2	9.1
長野県H29	25.3	37.9	25.8	10.8

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか

全国R3	29.9	62.9	6.9	-0.1
長野県R3	27.6	64.1	8.1	-0.3
長野県H31	24.7	63.0	12.3	
長野県H29	12.6	75.9	11.5	

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

国語の勉強は大切だと思いますか

全国R3	69.6	23.6	4.8	1.9
長野県R3	69.0	24.7	4.6	1.7
長野県H31	66.2	26.7	5.3	1.7
長野県H29	63.2	28.5	5.9	2.2

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

書く習慣を付ける授業を行いましたか

全国R3	24.5	65.1	10.1	-0.1
長野県R3	24.2	64.3	11.1	-0.3
長野県H31	34.2	58.9	6.8	
長野県H29	27.9	64.1	7.9	

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

国語の授業の内容はよく分かりますか

全国R3	39.5	44.7	12.5	3.2
長野県R3	38.5	47.6	11.5	2.4
長野県H31	39.8	46.2	11.7	2.3
長野県H29	37.3	46.5	12.8	3.3

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

様々な文章を読む習慣を付ける授業をしましたか

全国R3	30.6	63.3	6.6	-0.1
長野県R3	31.5	61.8	6.6	-0.8
長野県H31	22.2	62.5	15.3	
長野県H29	21.4	65.5	13.2	

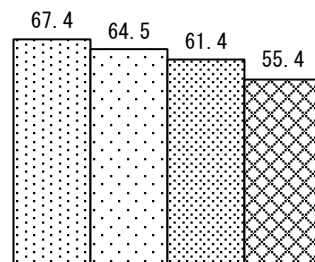
□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R3	65.2	26.6	6.9	-2.0
長野県R3	65.5	27.3	5.6	-6.6
長野県H31	62.9	28.7	6.4	-4.9
長野県H29	54.3	35.1	4.1	-2.3

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

「国語の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率(%)



□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

○国語に関する生徒の興味・関心の「国語の勉強は大切だと思う」「国語の授業の内容は分かる」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」は増加傾向であるが、「国語の勉強が好き」は減少している。  
 ○学校における指導状況は、いずれの項目も「よく行った」と回答した学校の割合が増加しているが、「話したり聞いたりする授業を行った」と肯定的に回答した学校の割合は減少傾向にある。  
 ○「国語の勉強が好き」と回答した生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

[中学校国語 生徒の興味関心]

[学校の指導状況]

国語の勉強は好きですか

全国R3	23.5	37.3	26.8	12.4
長野県R3	21.4	38.0	29.6	10.9
長野県H31	22.3	38.7	28.8	10.1
長野県H29	21.2	39.4	28.8	10.5

当てはまる どちらかといえば当てはまる どちらかといえば当てはまらない 当てはまらない

目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか

全国R3	32.0	56.3	11.3	0.1
長野県R3	26.4	54.9	17.6	6.6
長野県H31	23.3	59.8	16.9	
長野県H29	26.9	62.4	10.8	

よく行った どちらかといえば行った あまり行っていない 全く行っていない

国語の勉強は大切だと思いますか

全国R3	60.0	31.6	6.0	2.2
長野県R3	58.3	33.5	6.4	1.8
長野県H31	56.8	34.5	6.6	2.0
長野県H29	53.8	35.6	6.0	2.5

当てはまる どちらかといえば当てはまる どちらかといえば当てはまらない 当てはまらない

書く習慣を付ける授業を行いましたか

全国R3	39.7	54.6	5.9	0.1
長野県R3	43.0	52.8	4.3	
長野県H31	40.2	54.5	6.3	
長野県H29	45.2	48.4	6.6	

当てはまる どちらかといえば当てはまる どちらかといえば当てはまらない 当てはまらない

国語の授業の内容はよく分かりますか

全国R3	31.5	48.6	15.8	4.0
長野県R3	31.5	49.8	15.0	3.4
長野県H31	28.2	51.0	17.2	3.4
長野県H29	26.6	51.1	18.0	4.1

当てはまる どちらかといえば当てはまる どちらかといえば当てはまらない 当てはまらない

様々な文章を読む習慣を付ける授業をしましたか

全国R3	35.9	56.8	7.0	0.5
長野県R3	47.7	47.2	4.7	
長野県H31	27.0	59.3	13.8	
長野県H29	30.6	57.0	13.4	

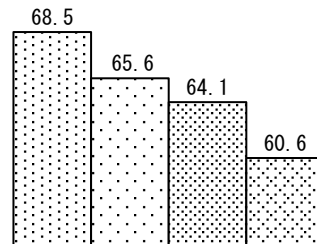
当てはまる どちらかといえば当てはまる どちらかといえば当てはまらない 当てはまらない

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R3	53.7	35.0	8.4	2.7
長野県R3	52.1	36.4	8.8	2.5
長野県H31	51.9	36.0	9.4	2.6
長野県H29	42.1	41.7	13.0	2.9

当てはまる どちらかといえば当てはまる どちらかといえば当てはまらない 当てはまらない

「国語の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率



当てはまる どちらかといえば当てはまる どちらかといえば当てはまらない 当てはまらない

#### 4 教科に関する質問紙調査の状況 算数・数学

##### ①小学校算数 児童の興味関心と小学校の指導状況

- 算数に関する児童の興味・関心は、いずれの項目も「当てはまる」と回答した児童の割合が増加しているが、「算数の勉強が好き」と肯定的に回答している児童の割合は減少している。
- 学校における指導状況は、いずれの項目も「よく行った」と回答した学校の割合が増加しているが、「補充的な学習指導を行った」と肯定的に回答している学校の割合は減少している。
- 「算数の勉強が好き」と回答した児童の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

[小学校算数 児童の興味関心]

算数の勉強は好きですか

	当てるはまる	どちらかといえば当てるはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
全国R3	40.5	27.3	18.2	13.9
長野県R3	38.6	29.7	20.3	11.4
長野県H31	37.4	31.9	20.1	10.6
長野県H30	30.1	32.2	24.6	13.0

□当てるはまる □どちらかといえば当てるはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

算数の勉強は大切だと思いますか

	当てるはまる	どちらかといえば当てるはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
全国R3	76.2	17.6	4.4	1.9
長野県R3	75.4	18.5	4.6	1.5
長野県H31	73.5	20.1	4.4	1.9
長野県H30	63.8	28.1	5.8	2.2

□当てるはまる □どちらかといえば当てるはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

算数の授業の内容はよく分かりますか

	当てるはまる	どちらかといえば当てるはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
全国R3	51.6	33.0	11.4	3.9
長野県R3	49.1	35.4	12.1	3.4
長野県H31	45.0	37.8	13.6	3.6
長野県H30	38.4	45.3	13.1	3.1

□当てるはまる □どちらかといえば当てるはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

	当てるはまる	どちらかといえば当てるはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
全国R3	72.8	19.8	5.3	2.0
長野県R3	72.8	20.2	6.3	1.6
長野県H31	71.6	21.2	6.4	1.8
長野県H30	64.1	26.8	6.7	2.2

□当てるはまる □どちらかといえば当てるはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

[小学校の指導状況]

実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

	よく行った	どちらかといえば行った	あまり行っていない	全く行っていない
全国R3	17.2	65.0	17.5	0.1
長野県R3	15.6	62.1	21.7	0.6
長野県H31	13.7	64.1	22.2	
長野県H30	10.8	59.9	28.7	

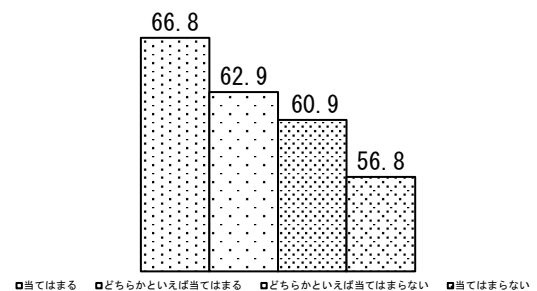
□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

算数の指導として、補充的な学習指導を行いましたか

	当てるはまる	どちらかといえば当てるはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
全国R3	48.6	46.0	5.0	0.2
長野県R3	39.0	49.6	10.9	0.6
長野県H31	38.6	54.8	6.0	0.5
長野県H30	26.5	59.9	12.4	0.6

□当てるはまる □どちらかといえば当てるはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

「算数の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率(%)



□当てるはまる □どちらかといえば当てるはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

②中学校数学 生徒の興味関心と中学校の指導状況

- 数学に関する生徒の興味・関心の「数学の勉強が好き」「数学の勉強は大切だと思う」「数学の授業の内容は分かる」は増加傾向であるが、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と肯定的に回答している学校の割合は減少している。
- 学校における指導状況は、いずれの項目も肯定的に回答した学校の割合は平成 31 年度と同程度であるが、肯定的に回答した学校において「よく行った」と回答した学校の割合は減少している。
- 「数学の勉強が好き」と回答した生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

[中学校数学 生徒の興味・関心]

数学の勉強は好きですか

全国R3	31.2	27.9	23.3	17.5
長野県R3	29.9	29.3	24.8	15.8
長野県H31	29.2	28.5	26.3	16.0
長野県H30	25.5	29.9	27.6	16.9

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

数学の勉強は大切だと思いますか

全国R3	49.3	34.8	11.4	4.3
長野県R3	48.4	37.1	10.9	3.5
長野県H31	48.4	36.7	11.0	3.8
長野県H30	43.8	40.2	12.1	3.9

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

数学の授業の内容はよく分かりますか

全国R3	35.6	39.0	18.3	6.9
長野県R3	36.4	40.1	17.9	6.4
長野県H31	34.7	40.9	18.2	6.0
長野県H30	29.3	44.5	20.4	6.7

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R3	37.8	36.8	18.1	7.1
長野県R3	37.3	38.5	17.8	6.1
長野県H31	40.0	37.4	16.4	6.1
長野県H30	34.7	39.5	18.8	6.9

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

[中学校の指導状況]

実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

全国R3	16.0	62.1	21.3	0.3
長野県R3	18.1	62.2	19.7	
長野県H31	21.2	59.8	19.0	
長野県H30	14.3	67.2	18.0	0.5

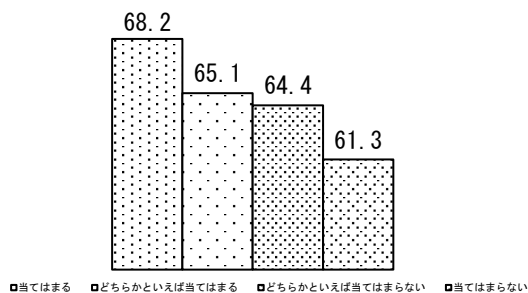
□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

数学の指導として、補充的な学習指導を行いましたか

全国R3	40.0	52.7	6.7	0.5
長野県R3	25.9	58.5	12.4	3.1
長野県H31	28	60.8	10.6	0.5
長野県H30	22.8	63.5	11.8	2.1

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

「数学の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率(%)



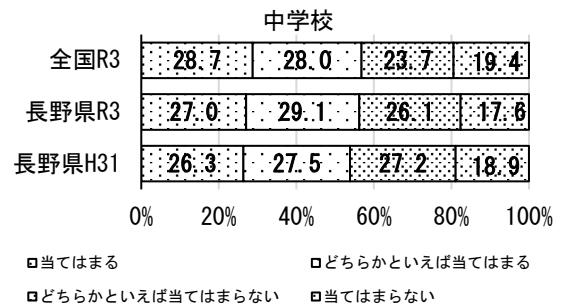
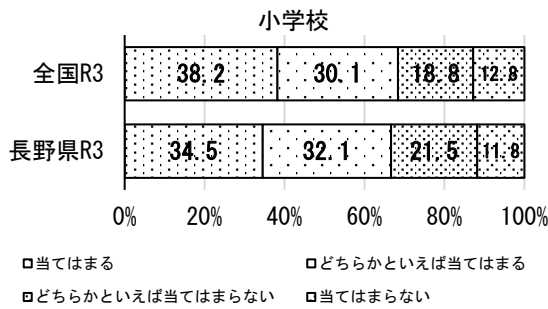
□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

## 5 教科に関する質問紙調査の状況 英語

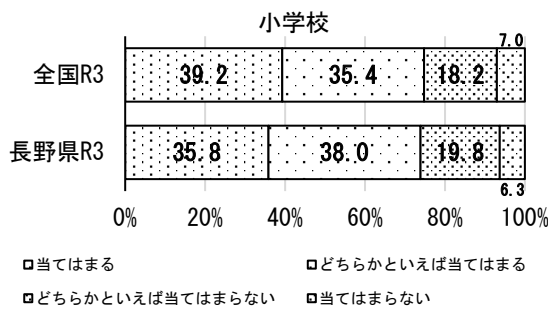
### ① 児童生徒の興味関心等

- 「英語の勉強は好きか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は6割を超え、生徒の割合は5割を超えているが、全国と比べてやや少ない傾向が見られる。
- 「英語で自分の考えや気持ちを伝え合うことができるか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は7割を超え、生徒の割合は6割を超えているが、全国と比べてやや少ない傾向が見られる。
- 「学校の授業以外で英語を使う機会があったか」の質問に肯定的に回答した割合は、児童生徒ともに全国平均よりやや少なく、小学校では4割、中学校では3割程度である。

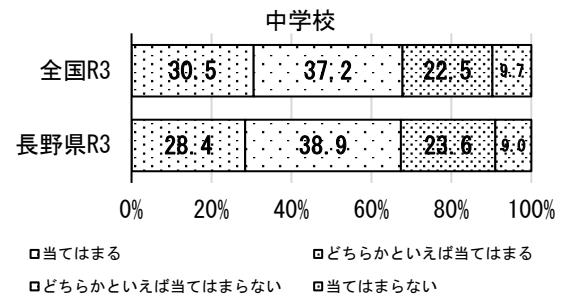
#### 【児童生徒質問紙】英語の勉強は好きですか



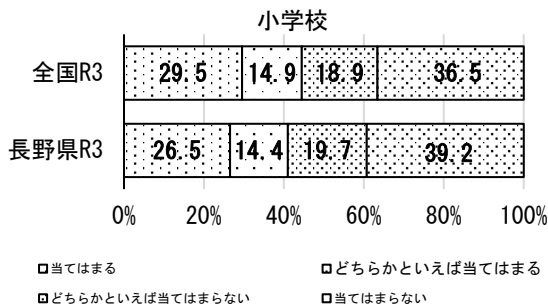
#### 【児童質問紙】英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか



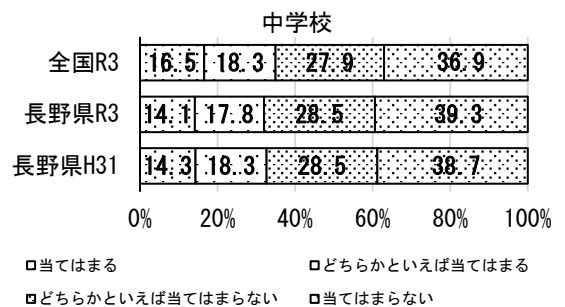
#### 【生徒質問紙】英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか



#### 【児童質問紙】これまで学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか



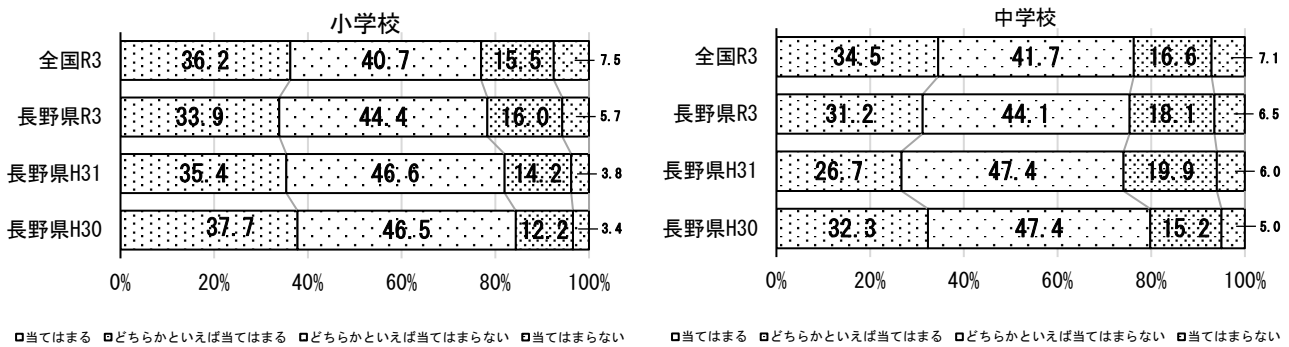
#### 【生徒質問紙】学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分ありましたか



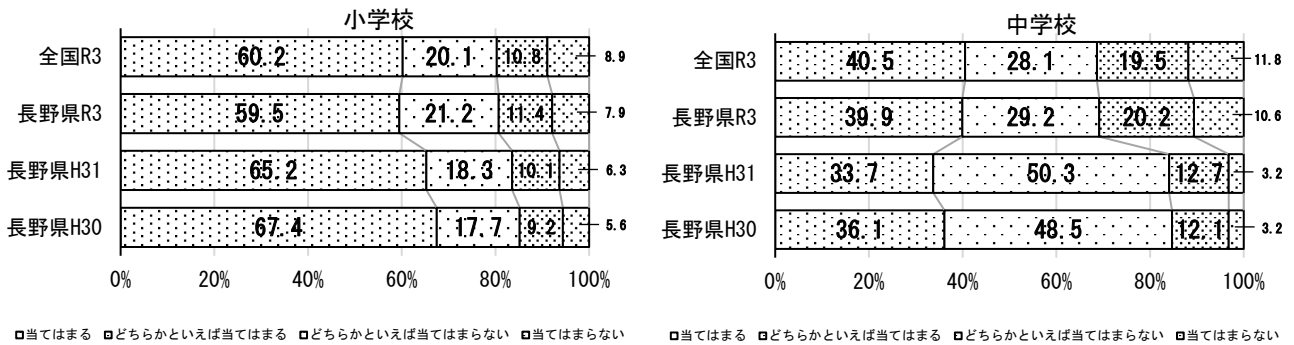
## 6 児童生徒の自己肯定感等に関する状況

- 「自分には、よいところがあると思うか」との質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、ともに7割を超えている。しかし、小学校では減少傾向にある。
- 「将来の夢や希望を持っていますか」との質問に「当てはまる」と回答した割合は、特に児童で減少しており、全国の傾向と同様である。
- 「学校生活の中で児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ評価する（ほめるなど）取り組みを行いましたか」との質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は小学校・中学校ともに9割を超えている。

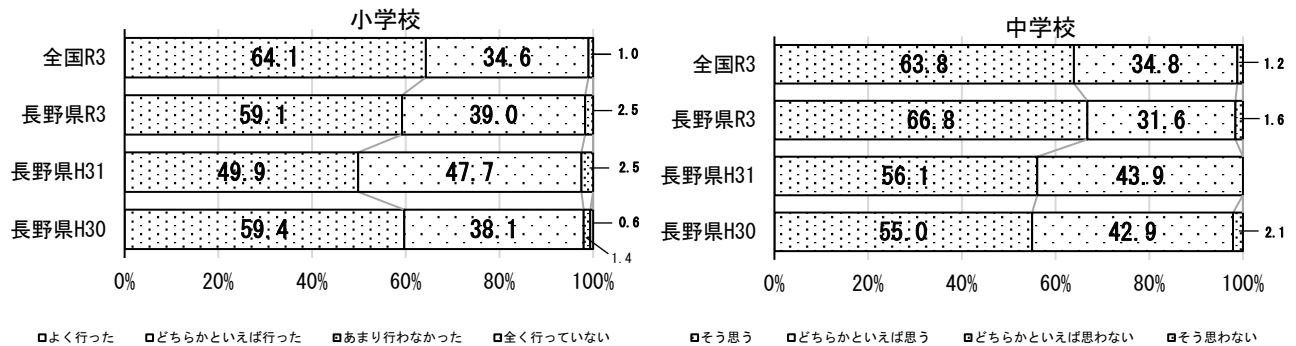
【児童生徒質問紙】自分には、よいところがあると思いますか



【児童生徒質問紙】将来の夢や希望を持っていますか

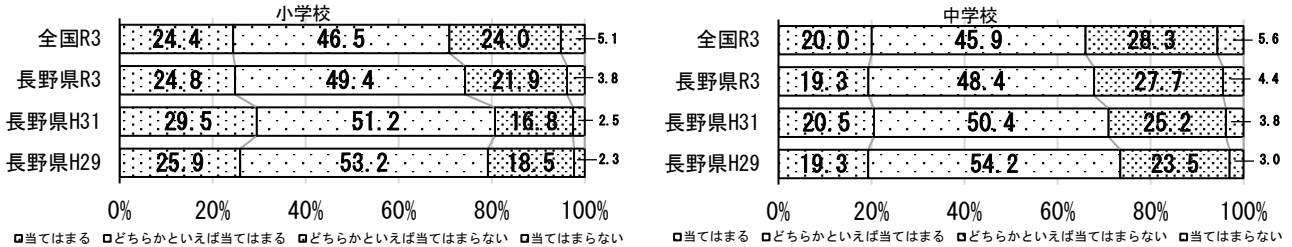


【学校質問紙】学校生活の中で児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（ほめるなど）取り組みを行いましたか

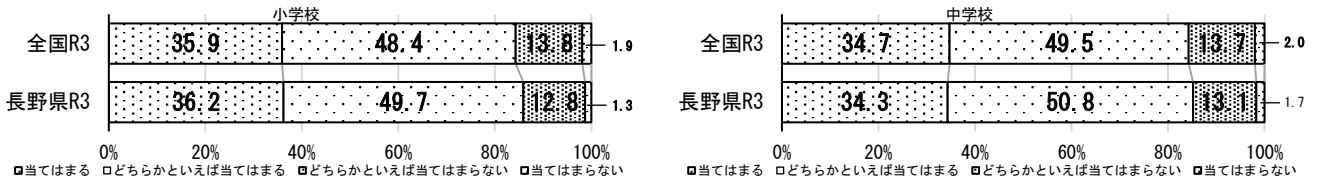


- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか」(挑戦心)について、平成31年度と比べると肯定的に回答した児童生徒の割合は減少しているが、全国平均を上回っている。
- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、授業で学んだことをほかの学習に生かそうとしたり、国語、算数、英語等の学習においても、主体的な姿勢をとろうとしたりする傾向がある。

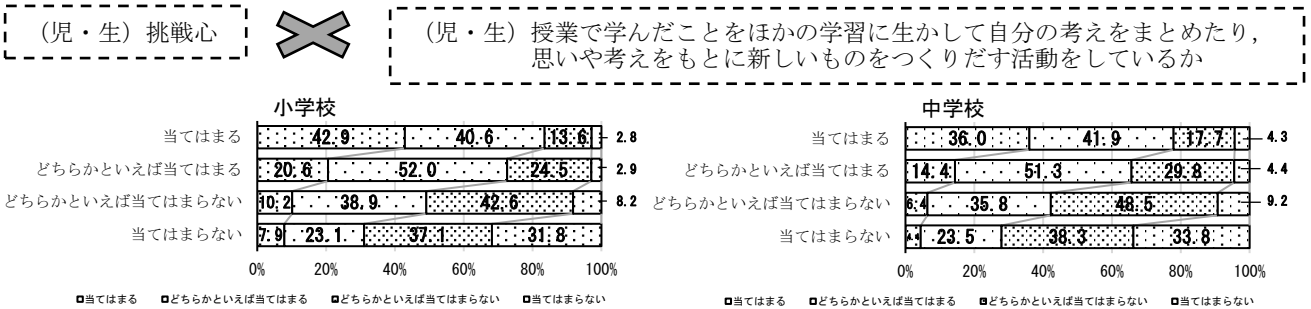
【児童生徒質問紙】 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。 ※H30は質問項目なし。



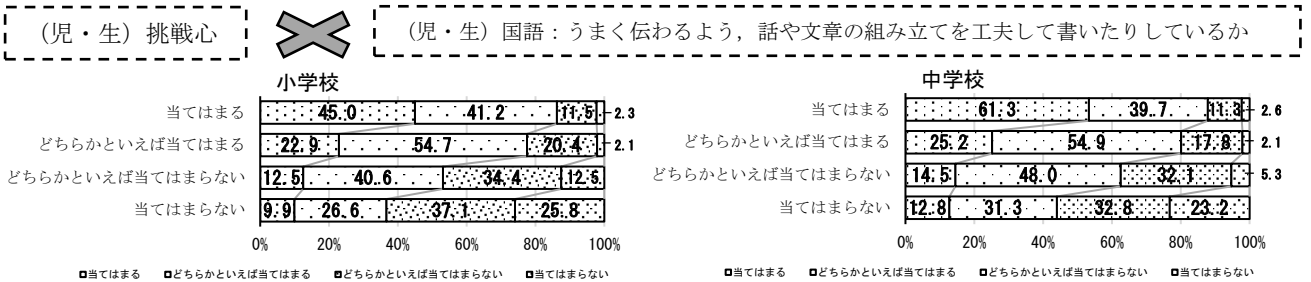
【児童生徒質問紙】 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。



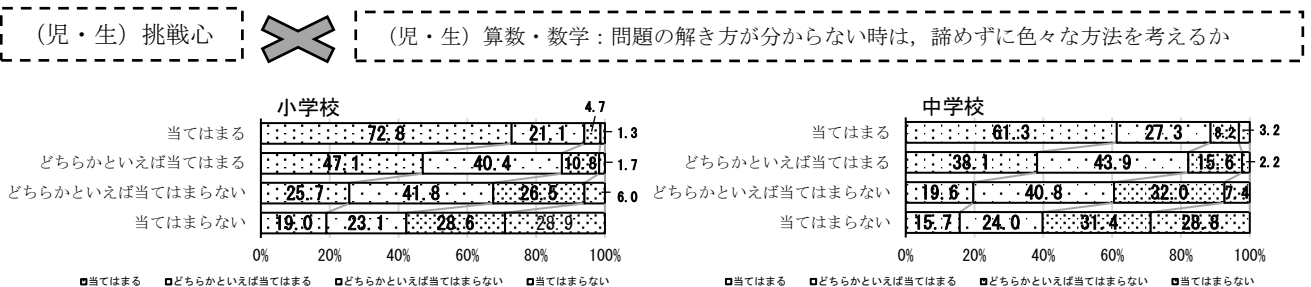
① 「挑戦心」と「授業で学んだことをほかの学習に生かしているか」の関係



② 「挑戦心」と「国語：うまく伝わるよう、話や文章の組み立てを工夫しているか」の関係



③ 「挑戦心」と「算数：新しい問題を解いてみたいか」の関係

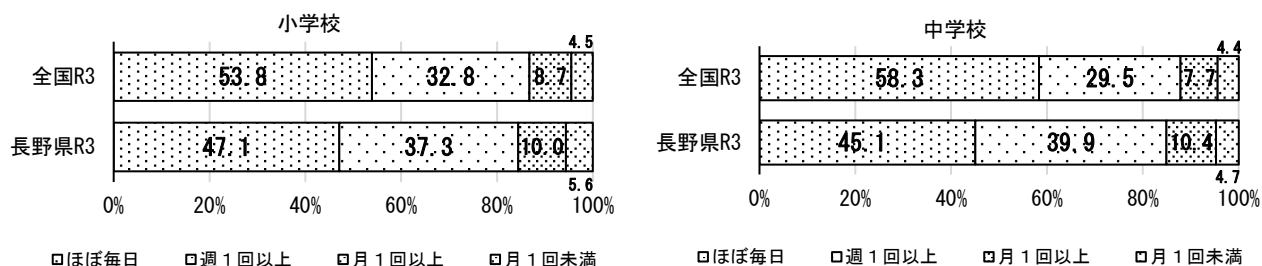




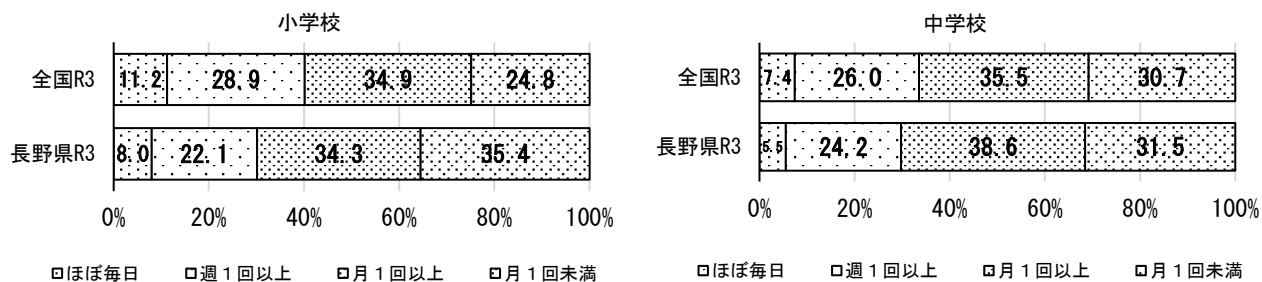
## 7 ICTを活用した学習状況（ICTの活用頻度）

- 「前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度活用したか」との質問に「ほぼ毎日」と回答した児童生徒は1割以下であり、7割程度が「月1回以上」「月1回未満」という活用状況である。
- 「コンピュータなどのICT機器を、他の友だちと意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用したか」との質問に「ほぼ毎日」と回答した児童生徒は1割以下であり、7割程度が「月1回以上」「月1回未満」という活用状況である。
- 「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」との質問に「役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つと思う」と回答した児童生徒は9割を超えている。
- 「1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」との質問に、「1時間以上」と回答した児童生徒は4割に満たない。
- 「教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか」との質問に「ある」「どちらかといえば、ある」と回答した学校は9割近くあり、全国平均を上回っている。
- 「コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業を行うための準備ができていますか」との質問に「できている」と回答している学校は9割近くある。

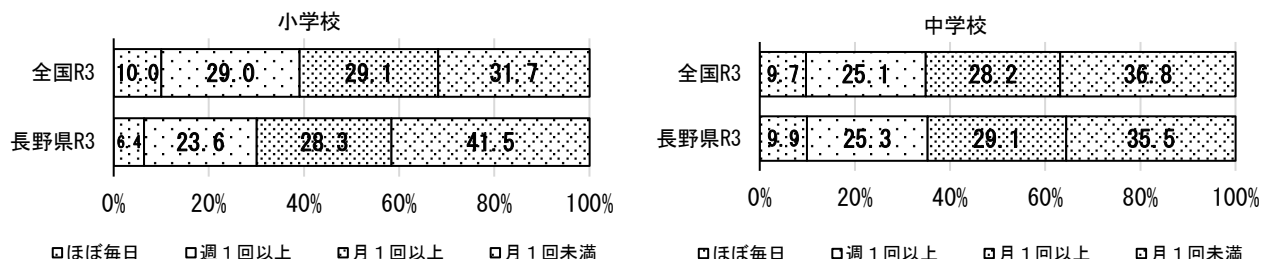
【学校質問紙】前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を、1クラス当たり、どの程度行いましたか



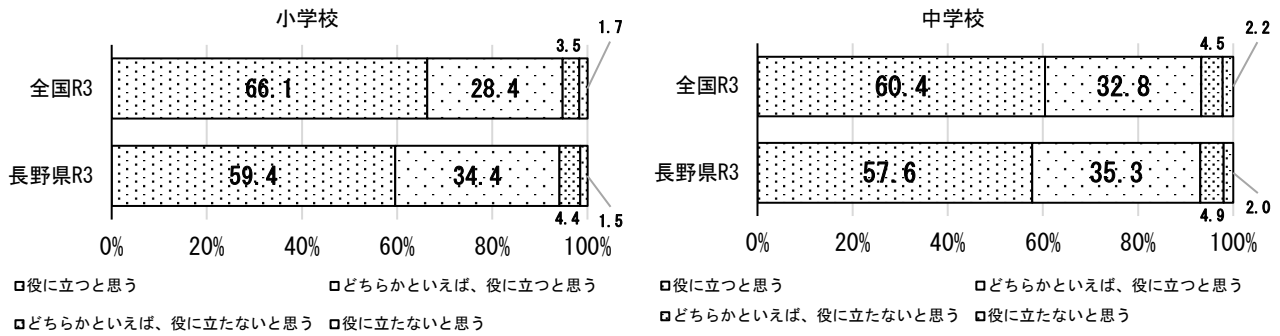
【児童生徒質問紙】前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか



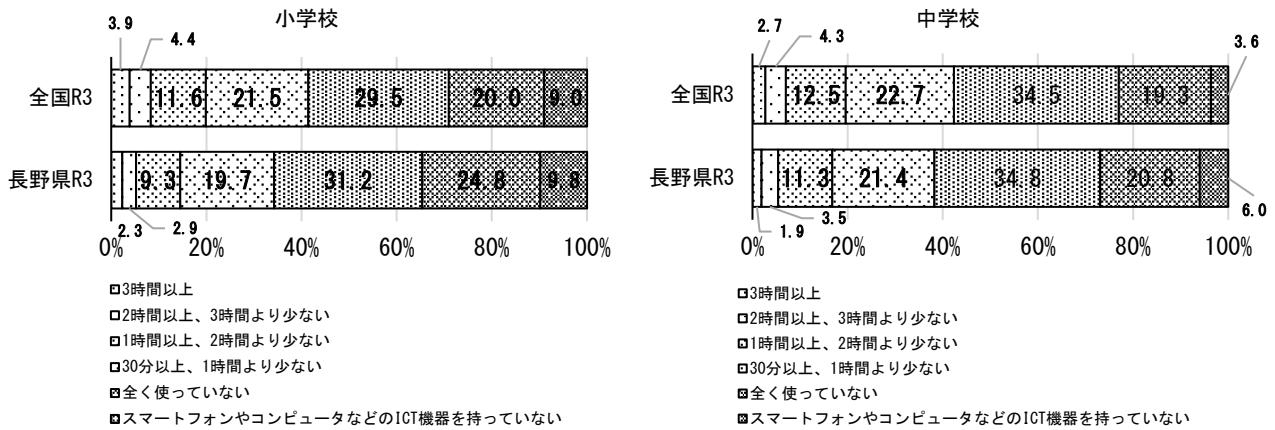
【児童生徒質問紙】あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友だちと意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか



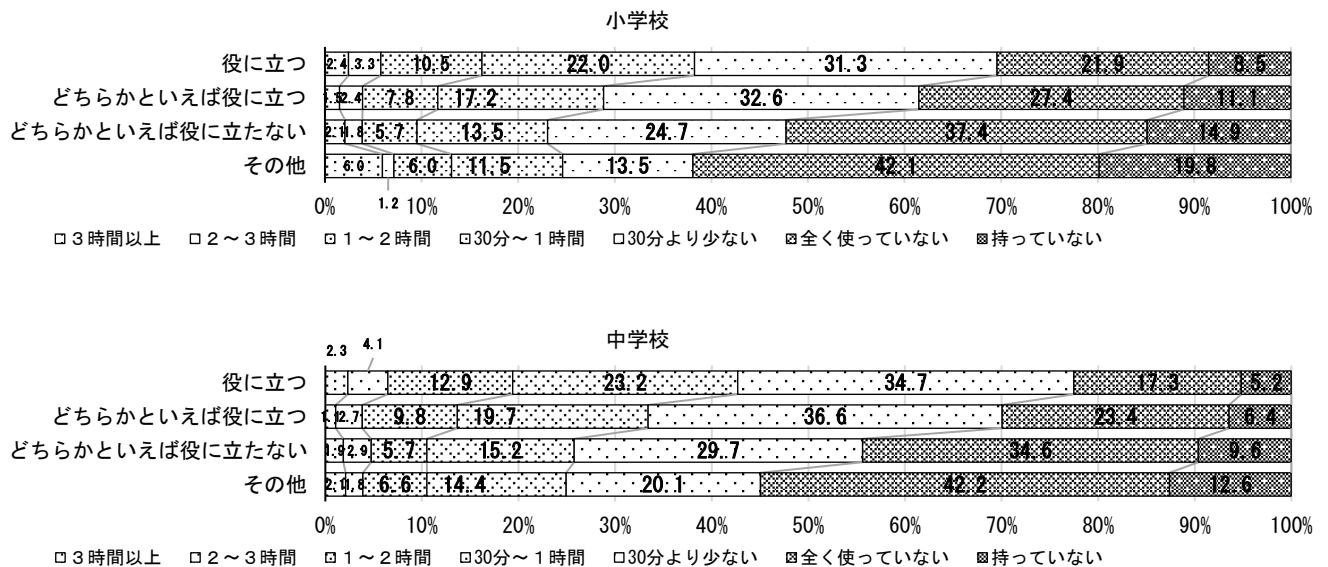
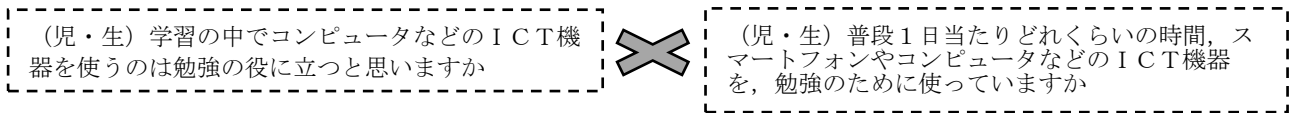
【児童生徒質問紙】学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



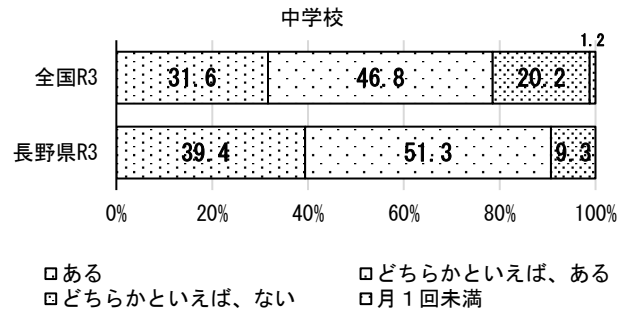
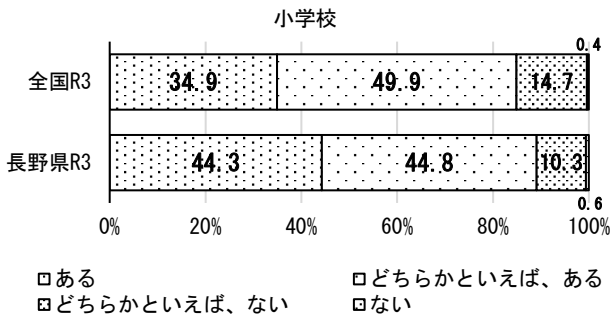
【児童生徒質問紙】普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか



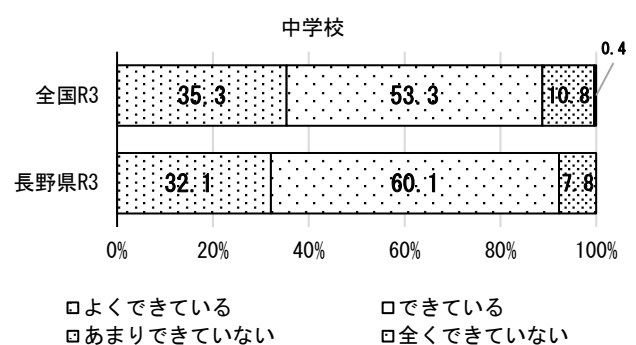
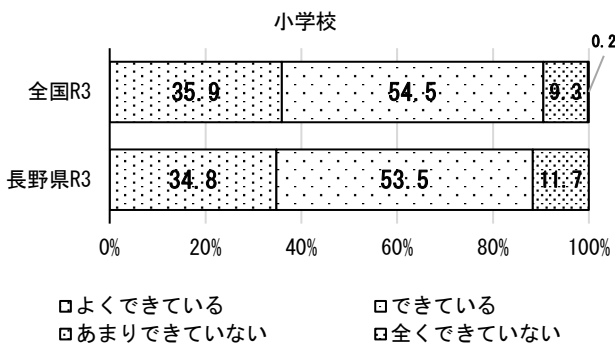
「ICT機器は勉強に役立つ」と「ICT機器の勉強での使用時間」の関係



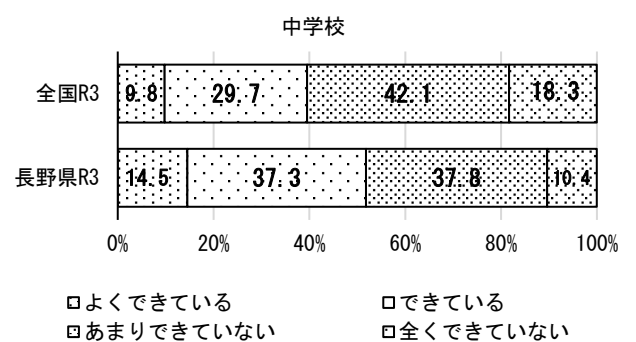
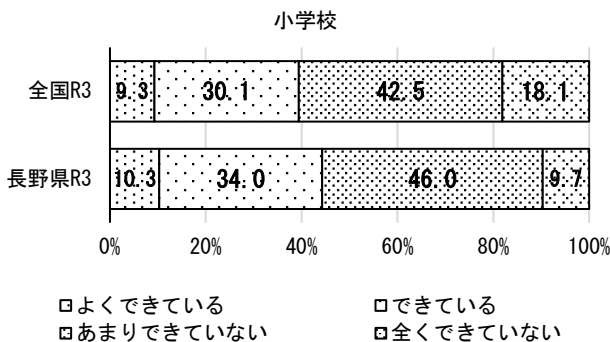
【学校質問紙】 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか



【学校質問紙】 コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業を行うための準備ができていますか



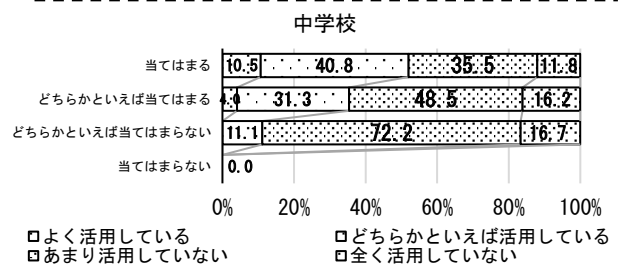
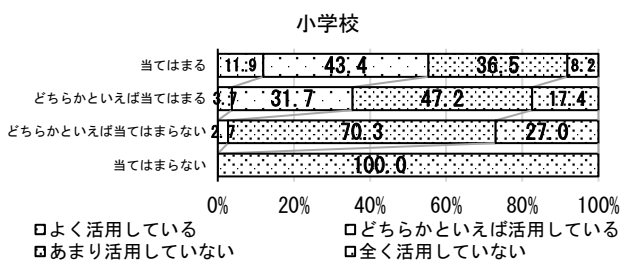
【学校質問紙】 コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備はできていますか



「ICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会」と「ICT機器を活用した取り組み」の関係

(学) 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか

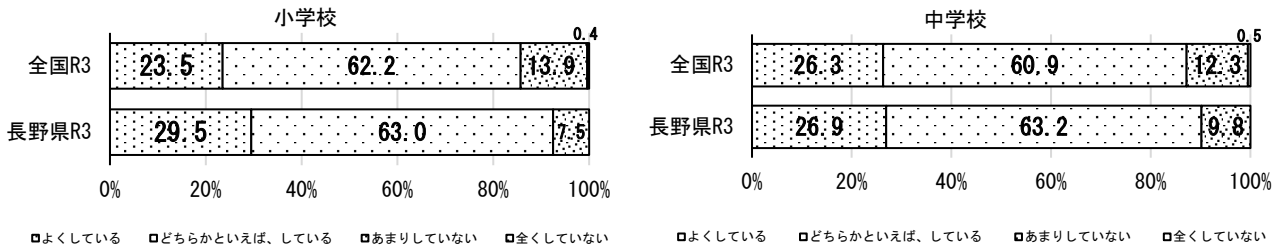
(学) あなたの学校では、コンピュータなどのICT機器を活用した取り組みをどの程度行っていますか 教職員と児童生徒のやり取りの場面



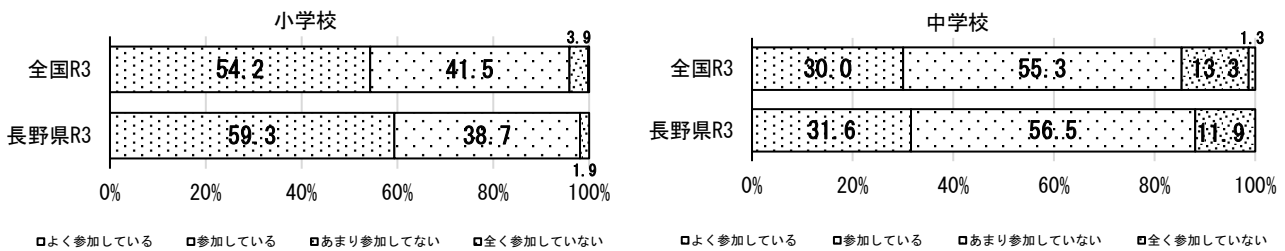
## 8 地域や社会と学校の連携・協働に関する状況

- 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている学校の割合は、小学校・中学校ともに9割を超え、全国平均を上回っている。
- 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合は9割を超え、全国平均を上回っている。
- 「保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか」との質問に、肯定的に回答した学校の割合は、小中学校ともに9割を超えている。

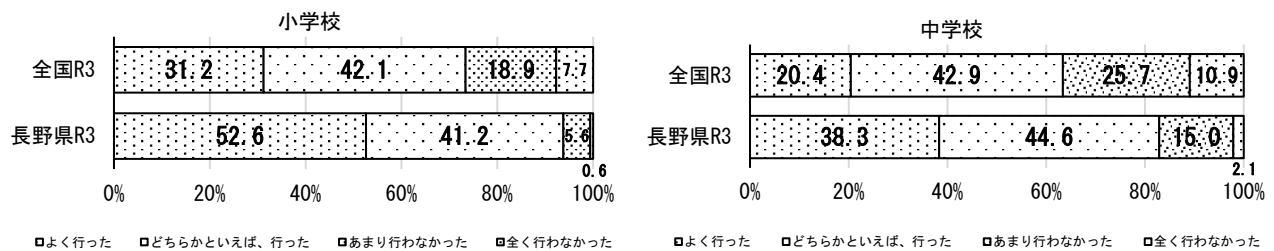
【学校質問紙】教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか



【学校質問紙】保護者や地域の人が学校の美化，登下校の見守り，学習・部活動支援，放課後支援，学校行事の運営などの活動に参加していますか



【学校質問紙】地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか



【学校質問紙】保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか

